青鞜

五月號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青

鞜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

五月號目次

男女戀愛の差別　エレン・ケイ　一

ねえ赤さま（詩）　彌生　二

卜者の言葉（小說）　加藤みどり　五

西川文子氏の「婦人解放論」を評す（批評）　らいてう　三

西川文子氏の「婦人解放論」を讀む（同上）　野枝　二九

イワノフ（戯曲）　チエホフ作　瀬沼夏葉譯　三七

得たる「いのち」（感想）　西崎花世　五八

山を去りて（短歌） 三ケ島葭 七三
糸のもつれ（戯曲） 小林哥津 七四
ソニヤ・コヴァレフスキイの自傳 野上彌生譯 九一
お前の日記（詩） 伊達虫 九三
思つてゐる事（感想） 岩野清 一〇五
讀んだものの評と最近雜感 らいてう・野枝 みどり
編輯室より
報告、社及補助團規則

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

男女戀愛の差別

男女間の恐ろしき差別は女子が愛なくしては性の要求に從ふことが不可能だといふ點にある。勿論女子と雖も戀愛以外人生に於ける職務を有し得ることは事實である。然し現在に於ける男女間の深き差別は男子がより多く屢々愛人としてよりも創造者として自己のベストを與へ得ることである——然し女子にあつてはその反對が殆ど通例である。かくの如くして男子がその仕事如何により自己並に他人によつて評價せらるるに反し、女子は心の中にその戀愛によつて自身を評價し、またせられんことを願望する。これが充分認められ、そして幸福の爲めに働らくまで女は自身の價値を感じない。女子がまた自己の官能を通じ男子によつて幸福になされんことを希望するのは勿論眞實である。併し女性のこの慾望は屢々男を愛し初めてから程經つて目醒める、故に彼女はその生命を彼の爲めに與へることが出來るのである、然るに男の場合にあつては女を所有せんとする慾望は屢々女に對し彼の小さい指を觸れる程愛してゐない内にさへ醒める。乃ち女子にあつて戀愛は通常靈性から官能に進む、そして時にそこまで達しないこともある。これに反し男子にあつてはそれが通常官能から靈性に進み、時にその旅程を終らないことがある——これが兩者にとつて男女間に現存する差別の最も痛ましいものである。

エレン・ケイ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ねえ、赤さま——彌生

銀杏が芽を吹いた。
楓が青い葉を吹いた。
桃が紅い花を吹いた。
あんな堅い、細い樹の枝から、
どうしてあんなものが出來たの、お父さま。

さあ、分りませんね。
お母さまに聞いて御覽。

銀杏が芽を吹いた。
楓が青い葉を吹いた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

桃が紅い花を吹いた。
あんな堅い、細い樹の枝から。
どうしてあんなものが出來たの、お母さま。

さあ、分りませんね、
いゝやに聞いて御覽。

いゝや、銀杏が芽を吹いてよ。
とんぼのやうな青い芽だよ。
楓の葉も靑いや、桃の花ひとり紅いねえ。
あんな堅い、細い樹の枝から、
どうしてあんなものが出來たのいゝや。

さあ、いゝやにも分りませんですね。
赤さまに聞いて御覽なさいまし。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

だつて、赤さんは何を聞いても、
默つて笑つてるばかしだもの、
ほらね、又笑つた。
ぢや赤さまが知つてゐらつしやるんでせう。
だから默つて笑つてゐらつしやるんでせう。
ねえ、赤さま。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

卜者の言葉——加藤緑

星を鏤めた空は春とは云へ未だ寒さうに澄み切つて居た。此處ばかりは夜の無い華かな巷の蒸すやうな刺激を帶びた電燈の光、瓦斯の匂ひ歡樂を唆る亂調子な樂の音、而して人の肩と肩と磨れ合ひ、顏と顏とが照らし合ふ淺草六區の賑ひの裡を常子は無暗と歩いて居た。何の目的も無く、それで居て其の張り切つた眸の中には何物をか求めやうと焦つて居る樣が明々と見えて居た。然し其の心は華かな四方の空氣から遠く隔つた或る暗い事に奪はれて居た。

『積ら無い既う歸らうか知らん』と其の心は不圖目醒めたやうに呟いた。

常子は自分の務めて居る××新聞社の命を受けて二三日前から變裝して博覽會の東京の暗黑面を視察すべく歩いて居るのであつた。其の日は淺草を根據地として朝から此の六區に足を歩み入れて居たのであつたが、別に面白い事も無くて最早原稿締切の十一時間近になつたので思ひ切つて歸る氣になつた。然し常子は今日不圖立ち寄つた卜者の云つた事が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

どうしても心の中に深く喰ひ込むで什う焦つても其の厭な〳〵記憶を拔き去る事が出來なかつた。其の心は其の言葉の爲めにすつかり痲痺されてしまつて既う何の働きもしなくなつて居た。活動へでも入つて忘れやうと努めて見たが、矢張其の厭な事が隙さへあれば直ぐ突き入つて心全部を横領して了ふ。遂々其處をも飛び出してしまつた。若い男の肌の臭ひ、着飾つた女の髮の薫り、暖い呼吸と呼吸とが縺れあつて雜然たる物音の中に搖れて行く中を走るやうにして逃れ出た常子は、漸く靜かな通りに出てホッとした。而して其の地味な羽織に同じやうな田舍縞の衣服を着て髮を一束に結んだ變裝田舍女の常子の姿は千束町の通りを電車の方へと歩いて行つた。が不圖とある人の集つた家の前に足を止めた。其處は晝間立ちよつた卜者の家で先程の男が掠れたやうな聲を振り擧げて一心に卦を說いて居る。其の黑い服裝をして冠を被つた神官姿の赤ら顏の目尻の下つた一見して野卑な感じのする男を、人の肩越しから見た時常子は全心に慄えを感じて急いて通り拔けた、而して又も新らしく其の折の光景を思ひ浮べるのであつた。

常子は其の日の午後の二時頃、何事かの事件を掴む爲めに千束町の邊を歩いて居た、人の集つて居るやうな場所さへあれば何處と云ふ事なしに人の肩越しから覗いて歩いた、遂々常子は卜者に掴つてしまつた。高島先生の弟子だと云ふ其の男は常子に十錢出せば二階

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に高島先生が居て運命判斷をして呉れると云つたので、常子は不眞面目な心を抱いて好奇心と記者氣質とで二階に登つて行つた。所謂高島先生は木の机を前に天眼鏡と古本とを並べて待つて居た。常子は芝居をして居るやうな心持で古い絹絲の房のついたショールを傍に恭く置いて而して卜者の前に出た。卜者は四十近くの矢張神官姿の少しも品のない男で常子の顔を見て居たが、暗誦しても居たやうに滯りなく喋舌り出した。最初常子の性質を云つた。それが濟むと其の手の筋を見た。常子は全く田舍女に化けて居るので此の卜者が其れと見破れば信じてやつてもいゝと云ふやうな心持で卜者の云ふ事を不眞面目に聽いて居たが其の人を馬鹿にしたやうな横着な眼元が漸々引き締つて來たと思ふと次に其の冷かな笑ひを浮べた口元が固くなつて終ひには其の心迄が卜者の前に首垂れてしまつた。

『貴女は今出世の門出であるが什うもな、此の筋の末の亂れたところを見ると何ぞ心に心配事があるに相違ない。何か家庭上に紛々がありはしませんか』卜者にとられた手はブル〳〵と慄えた。手の筋と顔とを見比べられた常子は心の中を讀まれるやうな氣がして思はず顔を外向けてしまつた。

『旦那はあるんですか。』

『あります。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『子供さんは？』

『あります。』

『旦那さんの御齢は？』

聞かれる儘に常子は全く眞の自分になつてしまつて正直に答へて行つた。而して卜者の口から自分等の運命を何と判斷されるかと其の心は亂れて來た。

卜者は常子の良人の年齢を聞いて

『それは不似合な片夫婦ですな。旦那は六白金星で貴女は三碧木星じや。これは到底幸福で暮らせるものではありませんせ。御子さんはありますか。』

『あります。二人。』

『御無事ですか？』

『否、一人死にました。』

既う茲迄答へて來た常子は不安に其の心は躍つて相手の口元のみ見て居た。

卜者は古びた漢字の書を出して見て居たが

『貴女の御子さんは男ですね、亡くなつた御子さんも男の子の筈だ。什うもな、貴女方の間に出來る御子さんは育ちませんよ。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『エ？　何故でせう。』

『星敗けがするんです、性の合はない夫婦の間の子供は什うしても死にます。子供が死なゝければ夫婦のうち何れかゞ死ぬ。』

『でも子供は丈夫ですがね。』

『それは判らん。何ぼ達者でも人の生命は判らん。』

常子は其の時は全く顔色が無くなつて居た。彼の只一人きりの可愛い子供が死ぬ…………それは夫婦別居すると云ふ問題よりも悲しい事であつた。常子の目尻と唇とが微に引き釣つて慄えて居た。心は絞ぼられるやうに痛くなつた。自分等の間に出來る子供は皆死ぬ。噫！　何たる悲しい言葉であらう。常子は去年死むだ子供が堪らなく氣の毒になつて來た。斯う云ふ事が眞にあり得るとしたなら運命と云ふものゝ惡戲さを呪はずには居られなくなつた。而して心に暗い影を投げつけた。卜者をも常子は恨まずには居られなかつた。卜者に尙ほ去年の夫婦子供の運命をも卜つて聞かした。子供は去年が危險だつた事、又常子夫婦にとつても去年は最も惡い年だつた事なども話した。常子は今更悲しかつた、辛かつた去年一年の事をも思ひ浮べた。生命の細い綱の上を渡るやうな難産の事、良人の大病、幼兒の死——而して生活上の變化…………………而して種々の悲しい運命の中には怖しい呪

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ひが含まれて居る事を悟つた。

『貴女は出世する運がある人だが、星廻りが惡いから御氣毒だ。』と云はれると一層自分等夫婦と云ふ者の運命を考へて來た。別れさへすれば總ての解決はつくんださ思つても見た。すると自分の運命も人の運命も何となく馬鹿げて來て卜者をも冷笑して見度くなつた。

『別れさへしたらいいのでせう。』と云つた常子の顏には先と同じやうな不眞面目な心が明々と現れて居た。而して常子は驚いて茫然として居る卜者に冷かな一瞥を與へてさつさと二階を下りてしまつた。

常子は一旦囚はれた卜者の言葉から逃れる事は出來なかつた。電車の中でも唯同じやうな事を考へて居た。良人と別れる事、子供の死………………『貴女の星廻りが惡いのだ』何の同情も持たない卜者の此の投げつけたやうな言葉を幾度も幾度も繰り返した。

旣う十時に近ひ夜の御濠の岸を常子はとぼとぼと步いて居た。暗い『運命』が背後から追いついて來るやうな氣がして新聞社の方へ馳るやうにして急いだ。旣う階下には社の受付の人より他誰も居なかつた。受付の扉を押して入るとパッと暖い炭火が面に當つた。空虛としした營業部を通つて階段をトントンと登つて編輯室に入つて行つた。常子は夜更けての

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室の空氣が好きであつた。晝の間と異つた森閑とした室内には電氣の下に當直の三四人の者のみが事務をとつて居た。炭火の匂ひが何とも云へぬ懷しさを與へて常子が心を唆(そゝ)るのであつた。

當直の人々は常子の歸りを待つて居た。今日の記事を書くべく最後のＦ版に一段つつ空けてあつた。

常子は人々ににこやかに無言で挨拶したのみで自分の卓に向つた。が直ぐ鉛筆を執らうともせず茫然と室内の光景を見て居た。

『如何でした。今日は？　面白い事がありましたか。』と色の白い八字髯の△△さんが微笑を堪へて問ふたが矢張無言で常子は目元で笑つて居た。

暫くしても何にも書かうとはしなかつた。既う時計は十時を過ぎて居る。

机の上には黒い土鉢に三色菫(パンシー)が植えられてあつた。其の黄と紫の斑の花が三輪面を常子の方へ向けて居るのが何となく可愛しく常子は凝乎と其の花を見て居た。心は矢張卜者の言葉を思つて居た。

綠の葉は電光に透いて水晶のやうに見えた。其の端々(みづ〳〵)しい細い葉脈には植物の生命が流れて居るやうで花瓣が今にも慄え出し相に思はれた。

電話は八ヶ間敷室内の靜寂を破つた。

常子は不圖自分の手を電氣の光の前に突き出して見た。丸い掌には三筋の太い線と細い無數の線とが亂れて居た。卜者の云つたやうに太い線の末が幾つにも裂けて亂れて居る。是れが今の自分の心を示して居るのかと凝乎と見て居た。又掌の殆ど中央を通して長指の許迄行つて居る線是れが出世の筋かと見て居た。すると又しても子供の死と云ふ事が浮むだ。『貴女の星廻りが惡いのだ。』――。

『原さん。時間が來ますから。』

△△さんに注意されて驚いて顧つて時計を見ると十時半。遲くとも十一時迄に書かねばならぬと漸く自分に返つて鉛筆を執つた。

次の日常子は早く濟まして歸つて來た。其の日は上野通を廻つて見たのであつた。夕方外から歸つて來た者は探訪して來た事を沓一心に書いて居る。編輯の一番忙しい時で又活氣のある時刻である。

常子は暇の時は椅子に凭つては凝乎と室内の光景を見て居るのが好きだつた。忙し相に鉛筆を走らす人々の手許を見て居たり、幹部の人々が記事の組立に忙殺されて居る有樣を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

其の日も茫然と見て居たが、常子に浮かぬ顔をしてつと編輯室を出て行つた。

昨日家に歸つた時、餘程卜者の話を良人にしやうと思つたが、其の心を亂すのも甲斐ない事と耐えて居た常子は何だか物足り無いやうな心に蟠があるやうな氣がして矢張卜者の言葉を考へて居た。

食堂に行つて見ると暇な人々が集つて將棊をして居たり、炭火の爐を圍むで政事論などを盛んにして居た。女一人も居ぬ親しみの無い所を突き切つて扉を開けて外の廊下へ出た。

既う町には黃昏の色が落ちかかつて其の中に電燈の光が漸々鮮かになつて行く。

常子は茫然と遠くの空を見て居た。晒の色が宮城の松の暗い邊から高く中天に消えて靜かな平和かな薄紫の空の色の中に目醒めた樣な星の光、一つ二つ、目近の〇〇劇場の明い光は中の華かさを偲はせた。

『今夜須磨子のサロメがあるんだ』と常子は不圖思つた。預言者ヨハネスの首にキッスをする凄艶なサロメの姿を思ふと彼の光の硝子窓に映る人影にも心が踊つて斯うした寂しい心を抱いて斯うした處に立つて居る自分がつくづく顧られた。目を下に落すと夕方の忙し相に行く人々の黑い影が大きい建物ばかりの中の廣い道に小さくみおろされた。ふと自分が女優にならずに斯うなつたのも皆運命だと思ふと今度は又意地惡く「運命」と云ふ事が不

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

思議な力を持つて押しよせた。

又しても自分の掌を出して見て居た常子はほつと太息して再び遠い空の方に目をやつた。

『私は一體什うなつて行くのだらう?』

常子は夕方になつて用事が無いとよく斯うして佇むでは空を仰いで種々な空想に耽るのが癖たつた。而して子供の事や良人の事を思つた。

常子は又も昨日から心を去らぬ問題を考へた。別居しやうか、改めて家庭を持たうか、と云ふ問題は永い間常子夫婦の間に繰返されて來た。がお互に一人の子供の爲めに思ひ切つた事も出來ずに人の二階を借りて有耶無耶な變な生活をして來た。現在の左様した生活を思ふと常子は云ふに云はれぬ不安を覺えた。家らしい家も持たず、子供一人持てあまして居るやうな、不徹底な共同生活を思ふと何とかしなければならぬとさし迫つた大問題のやうに考へられて來るが又家に歸ると別居して子供を何處ぞへやつて了ふと言ふ氣は失くなつて了ふ。

常子は子供を殺すのは辛く思つた。それを思つていつそ別居して子供一人位は自分で育てやうと云ふやうな氣も起して見た。が自分一人で生活すると云ふ事が何だか怖しい心細い氣がして來て既う其の樣な事は思ふまいと思つて見ても矢張家の事が目に浮んで來る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二三日前に常子が歸ると若い商人風の男が、『は私坊ちやんに大變な事をしてしまいまして、自轉車に乘つて來ますと坊ちやんが前に飛んでいらしたものですから遂……』斯う云ふ言葉を聽いた時の心持が再び常子の心に浮んだ。子供は居ない、これは大怪我をして病院にでも這入つたのか知らんと其の顏色は變り胸は高く動悸が打つて居た、其の時の心持を思つて常子は不圖兩手で自分の胸を抱いた。其の事があつてから幸怪我は無かつたが人樣の子供をお預りして居るのは心配だからと云つて願んで居た婆やは何と云つても來て吳れなくなつて直ぐ又違つた婆やを雇つた。夜遲くに歸つて行くと何時も子供は泣いて居た。氣違ひのやうに目の色替へて母の名を呼んで居た。それからと云ふもの常子は社に居ても子供の泣き聲と泣き顏とが耳と目にこびりついて外出の時など自分の子かと人の子の泣き聲を尋ね步いた事さへあつた。常子は其麼事をも思ひ出した。

『貴女方の間に生れる子供さんは育たない。』

又しても此の言葉が新らしく浮んで來た。今日歸つたら何とか相談して見やう。と常子は暗くなつて廊下から室内に入つた。

常子は何か考へ乍ら社員入口の反對の口から下駄の音をさせて出て來た。既う外はすつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かり夜の色に包まれて小鳥のやうに蝙蝠が舞つて居た。出た道を眞直に何處迄も何處迄も行つた常子は不圖足を止めた。而して四邊を見廻した。

『あら?!』

洋館がスク〳〵と兩側に立つて居る。例もの歸る道ではないらしい、怪しいと遠く顧つて見ると歸る道の反對の方向へ來て居たので笑しいやら腹立たしいやら、常子は仕方なく足を引き返した。

『私は何て馬鹿だらう。彼麼卜者の云つた言葉にすつかり化かされてしまつた。』と呟き乍ら漸くの事で電車に乘つた。車内の人々は皆一日の生活に疲れて意識も無い者のやうに半ば目を閉ぢてうとうとして居た。女の顏は白粉が禿げて眸は鈍く曇つて見えて居た。常子は各々其の人々に種々の運命をつけて考へて見て居るうちに降りなければならなくなつた。

家には子供が待つて居ると思ふと自然と足も進んだ。土産にとミンツの袋を十個ばかり買つて歸つて行くと子供は二階に婆やと繪本を見て居た。其の顏を見ると常子は先づ一日の無事を喜んだ。張り切つた其の肉生氣の滿ち〳〵た其の眸、健康の血がどく〳〵と小さい身體中を循環つて居る子供の有樣を見ると此の子が什うして死ぬ事があらうと今迄の不

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

安や厭な思ひを打ち消して了つた。

聽て良人の君雄も歸つて來て狹い穢い六疊で親子三人は夕飯の膳に向つた。

無邪氣な子供の一擧一動を見て居ると其の子に對する愛憐の情が起きると共に又しても卜者の言葉が百雷のやうに頭の上に落ちて來た。

『貴郞。私昨日卜者の所に行つたの。而して厭な事を聽いて來たわ』と遂に常子は君雄に話しかけた。

『卜者？』

君雄は妻の顏をしげ〳〵と見た。

『何と云つた。エ？』

『あのね。あの……』

『何と云つたのだ。』

君雄は好奇心と多少の不安もあるらしく云ひ澁る妻の口元を箸持つた儘凝乎と見た。

『あのね、種々云つたのよ。ですけれど卜者の云ふ事は當るんでせうか？』

常子は先づ斯う聞いた。良人の口からせめて當るものかと云つて貰ひたかつた。

『さあ、什う云ふものかな。僕は未だトつて貰つた事がないから知らん。何と云つたのだ僕等の事も云つたのだらうね。』

『貴郞は六白金星ね。私は三碧木星よ。金と木との性はどうしても合はないんですつて。私と貴郞はだから喧嘩ばかりして居るんだわ。それで相當に世に立つ力があり乍ら世に出る事も出來ず貧乏ばかりして居るんぢやあないか知らんと思つてよ。』

斯う云つてまじまじと見る妻の顏を君雄は冷かに笑つて

『左樣かも知らんね。それなら別れやうか。』

『而してね。星の合はない夫婦の間の子供は決して育たないんですつて。死んだ子の事もちやんと當つてたのよ。私、ああ厭になつちまつたわ。其麼事眞當でなくつても聞くと厭ね。私昨日から其れが氣になつて仕方がないの。』

『死ぬんだつて？　子供が？』

君雄は咽喉を絞めつけられたやう聲を出した。而して顏が蒼ざめて來た。

『子供が死なければ夫婦のうち誰かが死ぬんですつて、性の合はないものは什うしてもいけないんですつて、厭ね。』

『民雄が死ぬんだね。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『夫婦別れない以上は………』

夫婦は蒼い顔を見合せて淋しく笑つた。何時の間にか箸を右手に握つた儘其處へ眠つて了つた子供の顔を夫婦は何となく見た。暫く無言でゐたが、常子の眼は霑んで來た。而して冷くなつた殘りの飯をかき込むで了つた。君雄も默つて飯を終つた。

常子が餉臺を片づけてしまつて子供を床に入れて添寢しながら茫然と考へこむで居る顔を君雄は凝乎と見て居た。矢張今妻の口から語られた卜者の言葉が心に泌み込んで隔れないのである。が妻が運命に迷つて苦しんで居るのを見ると何とか云はねば氣が濟まなくなつた。

『おい。卜者の云ふ事など氣にかけるな。僕等は僕等で生活をしなければならぬ。運命と戰ふのだ。運命と！』

思ひ返したやうに勢よく云ふ良人を常子は嬉しく思つた。が矢張安心は出來なかつた。

『あのね、星祭りをするとね、斯う云ふ時にはいゝんですつて、それで出雲の大社で一週間して貰ふと七圓五十錢いるんですつてね左樣しませう。』

常子はどのやうな事をしてゞも親子無事で暮し度いと思つた。

君雄は常も口では強い事を云つて居る常子の其の女らしいおどおどした有樣を見ていぢ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らしくは思つたが、其の樣な迷信に賛成する事は出來なかつた。

『おいおい、人が笑ふよ。其麽事を云ふと、僕等はいゝさ。普通の夫婦と全く違ふのだから、新らしい運命を造つて行くのだ。』

『でもね。子供が死ぬなんて………厭だわね』

添寢してゐる我子の林檎のやうな美しい顏を見て居ると一寸の油斷を見て怖しい運命の呪ひの手は此の神の子のやうな民雄の上に落ちて來はせぬかと云ふやうな不安が矢張り消えないので常子は固く固く子供の身體を抱きしめた。

君雄の心にも暗い影がさして來てどうする事も出來なくなつた。口には强い事を云つて運命論を破つては了うが、其の心は怖ろしい物を見た後のやうに卜者の云つたと云ふ言葉に苦しめられた。君雄は自分で床を延べて蒲團の中にもぐりこむだ。

『ね。私はね。全く人間と云ふものは自分の力で運命を造つて行かれないと思つてよ、運命は什うする事も出來ない、私等が結婚したのも、而して今迄種々苦しい目や悲しい目をして來たのも、而して私が斯うして職業に就いて働くやうになつたのも、民雄が生れて來たのも私は決して自分の力でどうしたと云ふのではない皆運命の力に引きづられて玆迄來たのだと思つてよ。全く。ですから私には自信が極く薄いの。唯目に見えない强い力を信

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

じます。私には此の強い力の運命が神なんですから…………』

君雄は默つて蒲團を被つて了つた。

暫くして蒲團から頭を出して見ると、凝乎と不安な目を見開いて一方を凝視て居る妻の顔を見た。

『合性でない者の間の子供は眞當に死ぬんだらうか。怪しい話だね。其麽理屈のある筈が無い。』

矢張民雄は其の事を考へて居た。

常子には淺草千束町の卜者の姿迄が眠つて居る子供の顔の上に一杯になつて見えた。

（三、四、一六）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

西川文子氏の「婦人解放論」を評す――らいてう

たしか昨年の三月頃だつたかと思ふ。西川、宮崎、木村の三氏が主となつて新眞婦人會なるものを起され、其當時青鞜社に向つて、攻撃を加へてゐた何の理解もない俗衆の俗論を利用して、和强樂堂あたりで「雄辯會」を催し、盛に青鞜社に向つて的なき處に矢を放つやら、「眞新婦人」といふ月刊雜誌を發行されるやら、「女の行くべき道」と題する三氏共著の書物を出版されるやら其活動振りは外觀丈は只目ざましいといふより外なかつた。私はその頃書物の御寄贈にあづかつた時、一讀して先づ何よりも不思議に堪へなかつたのは、これ程迄にその思想も、主張も、生活も異る三氏がどうして相提携して一つ仕事か出來るかといふことだつた。それにも拘らず三氏が合同してゐられるとすればそこにお互の間に大きな虛僞(それは意識してゐないにせよ)が伏在するに相違ない。何か他に目的とする處が、各自にあつて、その方便として合同してゐられるのではないか、若しさうとすれば遠からず分離を見るに至るだらうとも思はれた。こんな風にその動機に餘程不純なものが交つてゐるや

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うに考へられた私はその當時どうも三氏の行動に對して批評する氣にもなれなかつたのでいつも默してゐた。ところが果して間もなくどんな事情のためかは知らないが、宮崎、木村の兩氏は去つて、中で一番利巧者らしかつた、あの何處までも常識的で、どんな事に對しても一通りの理解はもてるといつたやうな、そしてどこか苦勞人らしく人をそらさぬ如才なさの見える西川氏一人殘られた。そして今では眞新婦人なるものは西川氏と氏の御良人の御仕事になつてゐる。

氏の近著「婦人解放論」を讀むと、そこにも妻として、母として生活上のいろんな經驗を積まれた所謂物のよくわかつた(實はほんとのことは何もわからない)三十代の小まめな一婦人の姿が目に浮ぶ。そして私共はその婦人が老婆心から自己の日常生活から得た直接經驗を基礎とし、卑近な讀書や、耳學問から得た淺薄な智識の助けをかりて自分で自分のことを考へる力さへない今日の日本の愚かな多數婦人のために所謂大正の婦人として普通心得べき一般的な處世談を說くのをきかされる。だから「婦人の自覺」「性欲問題」「男女交際論」「結婚論」「夫婦論」「母と子」等章を追つて說かれる所は總て常識的な極々平穩無事なあまりに尤も過ぎた事ばかりで、最早今日の社會では普通に物の分る人ならばそれに對して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

誰れも異議はあるまいと思はれる。從つて私はあの一卷の書の中から自分の問題としてとり立てゝ論ずるやうな何ものも見出し得なかつた。何處が婦人解放論なのか氏は何をさして婦人の自覺といつてゐるのかさへ實は分らなかつた。

だが知れ切つたことの分らないのが社會といふものである。又今も言つた通り、日本の社會に新婦人なるものが現れ、婦人問題などが最近に於て論議せられるやうになつたとはいへ、それは全體の婦人といふものから見ればほんの局部的現象で、大多數の婦人はまだまだ傳習の深い眠りの中にゐるのだから、無智な社會や低級な一般婦人のためにこんな通俗的な卑近な意味での婦人問題を嚙んで含めてやるといふことは、そしてそれらを次第に導いてやるといふことは一方では誠に必要なそして有益なことであらう。この點に於て、私は氏の勞を謝さねばならぬと思つてゐる。併し社會又は婦人を救はむがためと云つて(氏はまた東北の窮民救濟にも奔走されたさうだが)自己の生活に對する反省もなく只自覺者ぶつて奮鬪される氏の行動には果してどれ丈自覺的のものがあらう。私は疑はざるを得ない。在來の利他的道德の無反省な肯定の上に立つて、「女も一家を治め、子女を敎育してなほ餘力あらば、出でゝ人の爲め、社會のため活動するのは決して惡いことではない」といつたやうな習俗的な、呑氣な、おめでたい考へ以上何の根底も自己の中にないとすれば、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

甚だ心細く思はれる。

どうも氏には氏自身の內生活が見られない。思ふに氏は自分自身の生活に就いては思ひ切つて不忠實な人ではあるまいか、無反省な人ではあるまいか。自序の終りに於て、「東北窮民救濟準備中」とか、「幸福に滿ちたる我が家の書齋にて」などゝ記された文でも何となく氏の無自覺さ加減や、呑氣さ加減が察せられるやうだが、既に氏自身が眞の意味で自覺のない人間であり、其生活態度には根本的の意味に於て何の新らしさもない依然たる舊婦人である限り、氏の所謂自由解放も、自覺も、新道德も其文字こそ同樣だがその內容に於ては誠に皮相な、外面的なものに過ぎないのは止むを得ない。だから「婦人解放論」一卷に現れた氏の意見は全く非個性的な、只々時代に適合するやうにとの御都合上出來上つた廣くして淺い一般的の常識論である。もしこゝに「婦人解放論」を婦人解放論なりとして手にする讀者があるならば恐らくその人は必ず失望するであらう。だがもし「流行におくれない婦人たらむと希ふものあらば御讀みになるがいゝ、必ず何か利する處があるに相違ない。實にこの書の意味は「流行におくれない婦人を造る」といふことに盡きる。

これがまだ世の多數といふ愚者や一般婦人を首肯せしめ、紋切形の如く健全とか穩健とか言はれる所以でもあらう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なほ又氏が根本的の自覺なき舊婦人たる證據の一として言はねばならぬことは氏の婦人論がともすれば婦人本位でないことである。婦人それ自身を目的としてゐないことである。即ち婦人としての人間、若しくは人間としての婦人なる個人を本位とせずして、社會又は男子を本位とし、目的として論じてゐることである。これは例證をあげた方が早分りだから左にその一つを記さう。

「女が強く、偉く成り得た場合にのみ男は品行方正になり得るものだ。女が弱く愚である限り、社會の風俗は直りやうがない。そこで婦人の自覺を促すといふことが極めて大切になつて來るのである云々」

氏の婦人論は總てかうしたものである。そこには絶對的のものはない。皆もちあひの事ばかりである。方便的である。御都合次第である。氏によつて取扱はれた婦人の價値はなほそれほど從屬的なものに過ぎないのだ。

私共は最早かういふ個人そのものの上に立たない婦人論に滿足し得なくなつてゐる。否私共ばかりではない、他に必ず多からうと思ふ。私は特に氏がこの點に氣付かれ、私共の中に起つた婦人問題はかういふ外部的な、姑息な、徹底しないものとは其出發點から丸で違ふものだといふことを知つて頂きたい。尤も所謂女子敎育家や、最早中年以上に達した

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

某々婦人等の意見として折々新聞雜誌などに見る馬鹿々しいものに比較すれば遙に進步した、時代を知り、又今日の婦人の心に對し理解と同情あるものには相違ないが。

次にいふべきことは氏の何處までも實際的でありたい。事實の上に立つて論じたいと心懸けてゐられるあの態度である。それは私も結構なことだと思ふ。けれど氏にはまだ事物の眞相を根本的に見やうとする努力さへ見えない。だから氏が好んで用ゐる幾多の例證を擧げての說明法――、歷史的事實の觀察、御自身の小さな經驗や狹隘な見聞範圍內に起つた卑近な出來事の觀察も皆極めて表面的な又は局部的なものばかりなのに、この所謂事實を唯一の根據として何の疑ふ處もなくすぐ結論を下して行くのだから一見實際的のやうで實は隨分あてにならない。時には驚くべく粗笨な又空想的なものになつてゐる。(常識的に一寸見るとさう理屈にあはぬ處もないらしいから通用するやうなものの)かういふ點に氏の無智と淺薄が可成りに曝露されてゐる。御同樣に知識を有たぬ私共今の日本婦人として止むを得ないことだが。

大分書いたやうだからもう大概で切り上げやうと思ふ。色々の點から見て氏はまだどうしても根本に於て舊婦人たる資格を十二分に保存してゐられる。要するに氏は只利巧者な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のでだ。だから本體（なかみ）はともあれ着物丈はすぐ流行と共に着換へられる人である。氏を呼んで極通俗的な意味で文明的もしくは進歩的世話女房とも云へよう。私は氏が一般婦人にとつてよき小母さんであること、あまり流行に遅れないやうに世渡りをする上のよき相談相手であることを知つてゐる、と同時にこれ以上氏に望むことの不可能なのをも亦忘れやしない。

序ながら氏が先輩知己から多くの序文、序歌を集められた處にも亦氏の如才なさや不眞面目な處世術が窺はれるやうで自分には不愉快なものだつた。（三、四、一七、）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

西川文子氏の『婦人解放論』を讀む――野枝

『婦人解放論』と云ふ書名に或る興味をもつて通讀して見た。西川氏の論文を讀むのは私は始めてではない。昨年『眞新婦人』創刊當時に、西川、木村、宮崎三氏の合著として刊行された『新しき女の行くべき道』をよんだのが始めてであつた。私はその當時それにも非常な興味と注意をもつて讀んだ。併しそれは一顧にも價しないと思はれる程愚なものであつた。私はそれに依つて『眞新婦人』に對する興味も一時にすべて失つてしまつた。

たま／＼此度私の譯した『婦人解放の悲劇』に先だつて西川氏のが出版されたことを知つてかなりな興味をむけて讀んだのであつた。

讀み初める前にあたつて、私は、私の小さい一部の仕事として讀んでしまつたら出來る丈け精細に解剖し、批評して見たいと思つてゐた。併し書物を手にした時に私はすでにその意氣組を挫かれてしまつた。書物の初めに書かれた序文や序歌と稱するものゝ愚劣さが既に内容を表象してゐるやうに思はれた。私は先づそれで失望した。次に本文の第一章を讀む

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と愈よ淺い物足りない感がした。讀んで行くに從つて論文と云ふやうな嚴格なものを讀んでゐるのではなくありふれた婦人雜誌の經驗談でもよんでゐるやうな樂な氣持ちになつてしまつて、評するなんて云ふやうな氣にはならなくなつてしまつた。

第一に著者は至る處に『自覺』と云ふ字を用ゐて居られるがそも〳〵その御自身が本當に自覺してお書きになつたのかどうだかお聞きしたい。自覺と云ふ言葉に何の反響もない。何の意義もない。自覺と云ふ言葉はさう輕々しく空虛で購ひ得られるものではない。西川氏は、何故自覺と云ふことを說く前に御自身でそれを、とり入れなかつたのだらう。斯う云つても私は別に同氏に對して侮辱を與へるのでも何でもない。けれども實際私はあの書を讀むでゐるうちに頻りに情ない氣がし出して來た。氏自身は一かどの自覺ある新しい女であるとの自信があるらしい。併し私は少くともあの『新しき女の行くべき道』及びこの解放論に表はれた文子氏の思想に對して新らしい生命とか眞の自覺をば何處にも發見し得ない。のみならず無反省な、自己の所信に對する矛盾した論さへ隨所に見られる。

次に大體に於て著者は恰かも堂々たる自己の立派な見識を發表するやうなつもりでゐられるらしい。併し私は何處にもその眞實を認むることが出來ない。よしそれは氏自身は眞實と考へてゐられることにして、私には極く皮想な意見としか受されないし例へ處々に小

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なうなづかれるやうな點がないではないけれども——例へば議論の根據となつてゐる歴史的ないろ／＼な引照された例が一つも本當に吟味され、考察されずしてたゞ徒らに羅列されてあるのみでその眞僞をもたしかめずして直ちに、如何にも手輕に斷定が下されてあるど——それを何の吟味も考察も說明もなくして私は直ちに眞ださうなつくことはなし得ない。

次にその淺薄な皮相な新しいものに向つての理解を舊いものに向つて結びつけやうとする著者の態度は私共にとつて呪ふべきものである。半理解——これほどいやなものはない。何故に舊いものをして行く處まで行かしめないのだらう。新しいものをして行かしめないのだらう。そうしてこそ、本當に双方に生命が出て來るのだ。舊いものは舊い者で徹底すれば其處に矢張り意義が生れて來る。新しいものも往く處まで往けば基が築ける力が出て來る。生命があふれ出す。そして後の正々堂々たる本當の火花を散らしての生命と生命の戰こそ私達を眞實に強くするものなのだ。而るに稍もすると皮相な見解をもつて、これを調停し妥協させやうとする中介者たる位置に立つて賢さうに立ち廻つて双方を不徹底に終らさうとする。私たちにとつてこれほど惡むべき態度はない。一體我々日本人は擧つてさうだと云ひたい位に不得要領な人が多い。舊い／＼と云つてゐても何がどう動いても一歩も

踏み出さぬと云ふほどに舊いものに對して信仰を把持し得てゐる人が幾人ゐるだらう。舊い新らしいはおいて本當に自分の中心生命をつかんでゐる者などは皆無と云つてもよい。だから私共の周圍は何時も手ぬるく淺薄で不得要領だ、始終グラツイてゐるのだ。西川氏のその論文は遺憾なく淺薄な不得要領な日本人の書いたものだ。何の力も眞實をも感受することが出來ない。併し斯く云ふ私も矢張りお仲間なのだ。自分の云ふ、一言にでも何の響もない、何の含蓄もないことが耻かしく情ない。或る所で私共の書くものを許した後に、あの連中の書くものはすべて感想で論文ではない。論文を見たいものだと云ふやうなことも云はれたと聞いたときに私は、本當に、何とも言ひやうのない感に打たれた。本當に――私共は小さい一つの論文をさへ書くことの出來ない程まだ幼稚で無智なのだ、と思ふと、うかとこうしてはゐられない樣な氣持がした。そうして西川氏のこの解放論を讀んでそれを一層痛切に考へさゝれた。これが論文だらうか？私は、かう多くの人に聞いて見たい。そしてまた更に何故に、解放論と名づけられたかを疑ふ。この論文中に婦人解放に關する何物をも見出すことが出來なかつた。たゞ物のよく解る悧巧な奥樣の、一手記だとしか見られない。かう書いて私はあの力と情熱の溢るゝ立派なエンマ、ゴルドマンや豊富な智識と自由な思考力を有するエレンケイの論文を想はずにはゐられない。そうして自分たちの見

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

すぼらしさをおもはずにはゐられない。

西川氏の論文の根本の難を云へば氏自身の見識によつてゞなくして多くの實例を並べてそのたしかなる判別も吟味もなくて直ちに斷定を下しその斷定が結論になることによつて成つてゐるのでそれから來る矛盾や誤謬が少くない。第一章の『婦人の自覺』といふ題目に關して私はまるで自覺といふものゝ本體を其處に見出し得ずして終に婦人新道德論を唱ふる所以と云ふその理由に就いて

『――女性の位置が變るにつれて新道德論がとなへられ行はれぬと其處に不都合が生じる之れ私の玆に婦人新道德論を唱ふるに至つた所以である。』

といふ驚くべき結論を見出した。都合次第に依る道德論とは如何なものか、聞かまほしきものである。此處らが半理解の功德なのかも知れない。なほ一々擧ぐれば可なりひどい處がある。夫婦論の貞操觀には貞操は强ふべきものでなく自發的のものでなくてはならない。相愛のものならば何處までも自然と一夫一婦の他に出でないと書いてあるがそれからずつと先になつて、男子は自動的には不品行なものであるから婦人が偉くなつて男子に品行方正を强ひなくてはならないなどゝ大變に反對なことが述べてあつたり、

『餘りに嫉妬深いのは他から見ても如何にも滑稽だが嫉妬をしてはならぬ／＼とばかり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

思ひこみ自己心中の情を抑へに抑へて氷のやうになつてゐる人も生きてゐる人間のやうでなくてツマラヌ、ヒステリー的でない限り嫉妬は少々するがよからうと考へる、』

などゝ書いてある。まるで其處らに鼻つき合はしてゐる無反省な男子でも云ひさうなことである。果して西川氏御自身の信じてゐる所であらうか？かう云ふ例を一々あげて見ると澤山あるが、要するに『婦人解放論』などゝ云ふ大した論文ではなく從前よりも少し氣の利いた賢母良妻主義鼓吹の書物だ。

此處まで書いて讀み返して見るとまるで惡口ばかり書いたやうに取れる著者に對して濟まない氣もするけれどつまり西川氏と私との立脚地の差である。氏は先覺者として社會を前にそれを導き敎へやうとされてゐて、すべて社會を基礎にしての論である。私共は今の處――後には起つて、社會的の運動を起すかも知れないにしても――あくまで自已の內部に向つてより多くの努力をしやうとしてゐるものである。私達は自分自身の內生活のうちにすらまだ色々な鬪爭がある。自已の統一すらつかないである。私達は自から新らしい道をえらんではゐるがまだ私達の體內をめぐつてゐる古い血がともすれば橫暴になりたがつてゐる。私達はまだとても、本當に、新らしいと自稱し得る時には到達してはゐない。私等にはとてもこれから幾年たつても新道德を鼓吹するやうな時はないだらう。西川氏の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

やうに、何の矛盾も不安をも感ぜずに自から新らしい女と稱し世の多くの人々を指導し得る人は幸福だと私は思ふ。而し、私はこの論文は何にしても物足りない。少し突つ込んで思考するだけの能力のある人は誰しもこれでは滿足が出來ないだらう。たゞ何に向つても解りたがる、そのくせ自分自身に何の定見もない人達には一番向いた論文かもしれない。即ち議論の上からは或程度までの理解を有するけれども實行と云ふ時になつて世間を前にして躊躇しくだらない妥協や卑劣な犧牲道德のかげにかくれて自信を貫徹するの決斷を有しない人である。西川氏の論文に表面に表はれた言葉の上では可なり解つたらしい立派な處があるにもかゝはらず到る處にそれを裏切る習俗的な愚な發想を見るのはこの所以である。思想と使用する言葉との間に何の連絡もないことがまたこの論文を空虛なものとする理由の一つである。私達は新らしき生命に向つてこの不斷の努力と信念を尊敬すると同樣に舊きものに向つても鞏固なる信念を把持するものには眞實な敬虔の念を禁じ得ない。その古き標的はよし私等から見て何の價値もないものであつてもその信念は尊いものであると思ふ。然るに、その中間にたつた所謂調停的態度には何等尊敬すべき、同情すべき點をも見出し得ない。彼は何處にもその自身の根づよき據り處を有しないで新らしきものの皮相を眞似て古きものを動かさうとこゝろみてゐる。彼は新らしきものゝ價値を落して舊

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

き信念を侮辱する惡むべき中介者である。併し私は彼等が如何に努力しやうとも何の根據も有しないものが根づよい信念を動かし得やうとは思はない。彼等によつて動かされたものは所詮駄目なのである。如何に新らしき諸形式をとり入れやうとも矢張り半理解の程度を超えないであらう。私等は本當に今自分達の生活に「深み」をつくることに心懸けなくてはならない。西川氏の論文は一々例を擧げてその例をもつて斷定を下せる程に淺薄なものである。私はこれを讀んでしまつて、何だか自分がつく〴〵省みられた。終りに年少者たる私は一切のへだてを取りのぞいて衷心から西川氏に申上げます。

『本當にあなたに自覺がおありになるのならばもう少し愼重な態度で著述して頂きたい。もう少し自分を省みて下さい。詳細に御自分のお書きになつたものに對して注意して頂きたい。あなた御自身にさへ恥かしいやうな矛盾した間違つた統一のない思想が到る處に見えてゐるではありませんか』と。(三、四、二〇、)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戯曲 イワノフ（四幕物）

——チエホフ作

第四幕

第五齣

シャベリスキイ伯。（出て來ながら。）えゝ、皆仕様のない奴等だ、然しさう云ふ俺も矢張奴等と違ひはないんだ、仕末にならんさなあ！

レベデフ。おい、何だつて君は？

シャベリスキイ伯。いや全くなんだ、奈何かして一つ俺自身が胸が悪るくなる段ぢやない、誰奴だつても堪らんやうな、何か其の、うんと馬鹿げた悪戯を遣つ付けて了はうか、さうだ、よし遣つ付けろ、屹度遣るとも！ 俺はもう今日ボルキンにさう言ひ附けたんだ、俺のことを今日皆に花婿つてさう披露をするやうにだ（笑ふ。）なに、皆鐵面皮なのさ、だから此方だつてもづう〳〵しく遣るんだよ。

レベデフ。倦々したよ、もう君にや！ おいマトウェイ、さう云つちや何だがね、どうでも君は腦病院に擔ぎ込まれなけりやならないやうな騒になるよ、さうぶつ〳〵ばかり云ひつつのつてゐちやあな。

シャベリスキイ伯。だがね、黄色い家の腦

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

病院が、何もそこらの白い家や、赤い家よりは悪いといふことはなからうぢやないか？なあに、今直ぐにでもどうぞこの俺を其處へお連れ下さいだ、一向構ひませんからさあどうぞだ。實に周圍の人間は下らん奴等ばかりだ、小さな、齷齪(こせ)ついた、下劣な、無能な人間ばかりだ、さうして俺も自分で自分に愛想をつかしてゐるのだ、自分の一つの言だつて信用しちや居らんのだからね……

レベデフ。それぢや恁うするのがいゝねえ？　麻綿でも口に啣へて、其奴(そいつ)に火を付けて、皆の奴等に吹掛けてやるさ、それでなけりや、もつと一番に可いことは、さうさ、まあ、自分の帽子を攫つて、家に歸るのが其れが何よりだよ。然も今日は此家ぢや結婚式があるんで、皆恁うして喜ばしくやつてるのに、君ばかりはカア／＼カア／＼つてまるで烏だ、さうさ、全くだ……

（シャベリスキイ伯はピアノの所に行つて急に身を屈めて、ほい／＼と泣き出した。）

レベデフ。何だい！……　マトウェイ！　えゝこれさ、伯爵？……　奈何(どう)したんだね？　マチユシヤ、えゝおい、これさ……ね、君……俺は君を辱めたかい？　こりや困つた、なあ許してくれ、えゝ、なあこの老ぼれ犬(いぬ)を……この酔漢(ようたくれ)を許してくれよ……水でも飲むかい……

シャベリスキイ伯。要らない。（頭を上げる。）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

レベデフ。だが何を泣いてるんだね！

シャベリスキイ伯。なあに何でもないんだ……

レベデフ。いやさうぢやないさ、嘘を云ふなよ……奈何したんだ？　何の理由(わけ)なんだよ？

シャベリスキイ伯。實はね今俺はこのセロを見てね、さうして……さうしてその、それあのね、あの猶太(ジウ)の女子(おなご)のことを考へ出したのさ……

レベデフ。いや、どうも、時もあらうにねえ、這麼今日のやうな場合に、よく那樣ことを考出してくれたえね！　あゝ彼女の靈に永遠の安息を與へ給へ！（譯者註。これは死者のことを思ひ出づるときにはロシヤ人はいつもその人の爲にかう神に祈るのである。）だが、思ひ出すのも時によるよ……

シャベリスキイ伯。俺は彼女(あれ)とよく二人合奏(ドエット)をやつたつけ　あゝ本當に好い女だつた、珍らしい、全く類のない女だつたよ！

（サーシャも聲を上げて泣く。）

レベデフ。何んだ、お前もか？　もう止しな、止しな！　奈何したと云ふのだ、二人とも那樣(そんな)に泣出して、それで、俺……俺は……だがまあ仕樣がないなあ、此處から出て行つておくれ、えゝ、お客達に見付けられると可かんぢやないか！

シャベリスキイ伯。パーシャ、なあ、あの太陽のよく照つてゐる時は、墓地でも愉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

快に見えるぢやないか、ちようどさうだよ、人も望がありさへすりや、たとひ年は取つても可いものだが、俺と來ちや、一つの希望だつて、たゞの一つだつて無いんだからなあ！

レベデフ。さうさね、君にはあんまり可いこともないなあ……子供もなけりや、金もなけりや、仕事もないんだ……そりやさうだが奈何なるものか！（サーシャに。）だがお前は奈何したと云ふんだよ？

シャベリスキー伯。バーシャ、俺に金をくれ、俺は彼の世に行つてから、勘定をするから、さうして俺は巴里に行くよ、妻の墓に行つて見るよ、俺も奈何にか暮してゐた時分には、金は隨分人にも呉れた、身代の半分は大抵人にくれて了つた、それだから俺にや他から金を貰らう權利がまあある̀と云ふものだ、それにね、他の人ぢやない、俺は親友の君にかう無心をするのだよ……

レベデフ。（まごついて。）君、僕の所にや一錢もないよ！　だが、まあ可いさ、可いさ可いさ！　いやね、と云つて俺は約束はしないよ、な、解つたかい、えゝ……まあ、可いや、可いや！（前の方を向ひて。）苦しいことだなあ！

第六齣

バヾキナ。（登場。）何處にゐるんでせう、私の相手つたら？　あゝ伯爵、まあ貴方、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

随分ですわ、私をまあ一人置去になさいましてさあ！ 本統に憎らしいのね！

（伯爵の手を扇で輕く打つ。）

シャベリスキイ伯。（氣味惡さうに。）お止しなさらんか！ 俺は貴方は大嫌だ！

バヾキナ。（驚いて。）何ですつて？ え？

シャベリスキイ伯。あゝもつと其方へ離れて下さい！

バヾキナ。（肘掛椅子にどつかりと倒れる。）あゝツ！（泣く。）

ジナイダ・サキシナ。（泣きながら登場。）誰か彼方へ見えたやうだ……蛇度花婿の冠持だらう、あゝ、もう祝福の時だよ……（聲を上げて泣く。）

サーシャ。（願ふやうに。）お母さん！

レベデフ。何だ、皆泣き出した！ 四人合奏（クワルテツ）だ！ もう澤山だらう！ 那様にお濕（しめり）がなくつても！ マトウェイ！……えもしマルファ・エゴーロウナ！…… 奈何したと云ふのです、俺までも……釣込まれて泣きたくなつた……（泣く。）おゝい！

ジナイダ・サキシナ。若しお前にこの母が要らないので、奈何しても云ふことを聞かないと云ふんなら……もう仕様がないから、お前が那様に嬉しい、その祝福をして上げやう……

（イワノフは燕尾服に手袋をして登場。）

第七齣

レベデフ。やあ、そら、まだこう云ふこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が足りなかつたんだ！　全體奈何したと云ふのだ？

サーシャ。お前はまあ何の要で？

イワノフ。いや御免下さい、僕は皆樣に些と願ひますが、どうか少しサーシャと僕とたゞ二人切りで話をさせて戴きたいのですが。

レベデフ。そりや然し順序が違ふぢやないか、花婿がまだ結婚の濟まん中に、花嫁のところへ來るなんぞと云ふのは！　それにもうお前さんは聖堂に行かなけりやならない時刻だらう。

イワノフ。バーシャ　僕がたつてのお願ひなんですから……

（レベデフは肩を縮める。彼に尾いてヂナイダ。サキシナ、伯爵、バッキナ皆退場。）

第八齣

サーシャ。（慳貪に。）何の要なの？

イワノフ。僕はもう憤怒（いかり）に燃えてゐる、いま〳〵しくて息も詰りさうだ。いや然しだね、僕は冷靜に話をすることは出來ます。所でね、今なのだが、その僕が丁度結婚式に、服を着換へやうと思つて、鏡の前に立つたのさ、所が奈何です横鬢に……白髮が生えてゐるぢやないか。シューラ、もう駄目です！　未だ今なら左も右も止しにすることが出來る、これは實に意味のない喜劇（コメデヤ）だ……お前は年は若いし、純潔だし、未だこれからが生活だ……と

ころが僕は……

サーシャ。別に珍らしいお話でもありません、私、もう這麽ことなら。千度も伺ひましたよ、私全く倦きて了ひましたわ！ さあ、聖堂へ入らつしやいまし、ねえ人樣を待たせずに。

イワノフ。僕は今直ぐ家へ歸ります、お前はどうか皆に結婚式は止めになつたと云つて下さい、何とか宜しく彼等に說明をして置いて下さい。もう悟つても可い時分だ。僕はハムレットを演じ、お前は天女を演じてゐたのさ。いや、だがもう澤山です。

サーシャ。（むつとなつて。）そりや何と云ふ物言振なの？ さうして私那樣こと、聽く耳もちませんわ。

イワノフ。聽かなくとも僕は言ふんだ、又これからもさう言ふです。

サーシャ。全體お前は何に此處へ來ましたの！ 其の例の泣言で私を嘲弄しやうと思つてなの？

イワノフ。いや僕はもう泣言は云はん！ 嘲弄しやうつて？ さうさ僕は嘲弄するのだらう、然しそれは、若し嘲弄することが出來るとすれば、僕は自分自身を思ふさま愚弄し、嘲弄してやりたいです、さうして世間の人を大に笑はせることが出來れば僕は本望だから、それを敢て爲ます屹度！ 僕はもう鏡で自分を見て、今更僕の良心は、恰も彈丸の破裂したや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うに突破れました！　僕は實に自分を嘲笑つたのです、やうやくにまあ氣が違はなかつたんです。(笑ふ。) メランコリー！　鬱悶(トスカ)！　譯のない懊惱！　まだ僕がこれで詩を書かないだけがまだしもだ！　泣言を云つて零して、人には退屈させる。で、又實際僕はね、今、もう生活の元氣と云ふものは皆費し切つて了つたこと、又僕はもう錆びた人間なんでもう自分の生活は過ぎて了つて、心も氣も全然薄弱になつて了つたこと、耳までもうメランコリーに浸さて了つたと云ふことを自覺したのだ。ねえ、見なさい、あの太陽の明るく輝いてゐる時、蟻だつても孜々として自分の餌を運んで、自ら滿足してゐる時に、恁う自覺するとは。あゝもう僕も澤山だ、全く駄目だ！　のみならずさ、或者には詐僞者と思はれ、又第二の者には可哀さうなものと見られ、又第三の者からは救の手を延ばされる、所で又第四の者からは、これが一番によくないんだ、全然マホメットの再來でもあるやうに崇拜してからに、何か新しい宗教でも傳へるかと、殆ど息を反跳(はづ)まして待つてゐられるのだ……いや〳〵然し幸にもまだ僕には、自負心も良心も殘つてゐるから、決して那樣僞りで自分を飾りたくない！僕は此處へ乘つて來る途中も、自分を其麽に嘲笑つたらう、さうして小鳥も僕を嘲笑つてゐるやうに思はれ、木の葉も矢張

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

嘲笑つてゞもゐるやうに思はれたね……

サーシャ。そりや憤怒ぢやありませんよ、そりや氣が違つたのですよ！

イワノフ。さう思ふかね？　いゝや氣が違つたのぢやないのだ。僕は今こそ總てのものを本統の色で見られる、僕の思想は純潔だ、すつかりまるでお前の良心のやうに純潔だ、我々はお互に愛し、愛されやう、だが、結婚だけは止さう！　僕は自分には氣が違ふのも、其麽に不幸になるのも構やしないが、然し他人をさうすることは出來ない、そんな權利はない！　僕は自分の泣言で、實に妻の死ぬ其の最終の一年間は、どれ程彼女の生活に毒を注入したか、又お前だつて僕と契約をしてからと云ふもの、笑ふことは忘れて了つたらう、その上に五年も一度に年を取つたやうに老けて了つた。又お前のお父樣だつて那麽に瞭然とした人だつたが、矢張僕のお蔭で、此の節は人を鑑別るのもよく出來なくなつた。まあ僕が譬へば會議に出ても、譬へば客に行つても、或は獵に出ても、何處へ行かうが、いつもその先々に、屹度僕は自分の退屈と、悲哀と、不滿とを擔いで行く。まあ、お待ち！　僕は無遠慮に、亂暴に云ふが、そりや許して下さい。心の憤怒が僕を壓迫して、激さしてゐるので、これより他には云へないんです。でね、僕はこれまで、嘘僞を言つたり、人生を罵つたりしたこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とは全く無いんだ、然し僕はこんな恐物になつてからと云ふものは、自分の意志に反して、自分では氣が着かずに、人生を罵つたり、運命を怨んだり、嘲したりするやうになつた。さうして又僕の周圍のものが僕から傳染して、生活を厭ふやうになり、矢張罵倒するやうになるのだ。いや、然し、僕は何だか大變にそれを幅を利かせて云つてゐるやうだね！　恰も僕が生きてゐるのは、自然に對して、何か恁う恩でも被せるかのやうに、威張つて幅を利かせてゐるやうだ。えゝ、何のことだ！

サーシャ。お待ちなさいよ……そらね、今お前は云つたでせう、もう泣言も倦き倦きしたと、ね、だからもう那様(そんな)ことは止して、ねえ、新生活をする時ぢやないの さうしてそれは結構ですわ……

イワノフ。僕にや何にも結構なことは見えない。さうして其麼新生活です？　僕生活はもう破れて了つて、取返しのならんものなのです！　で、我々はお互にもうそれを理解すべき時でせう、新生活か！

サーシャ。ニコライ、考へて御覧なさい！　ねえ、奈何してお前の生活が破れたものですよ、何處から見ればさう見えて？　何んだつて那様いやな憎むべきことがあるものですか？　私厭です、もう厭です、もう那様(そんな)話をするのも、聞くのもいやです……さあ、もう聖堂へ行らつしやい！

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

イワノフ。破れたのです！

サーシャ。大きい聲をしちやいけませんよお客達に聞えるぢやありませんか！

イワノフ。若し人間が馬鹿でもなく、教育があつて、其上に壯健なものであるのに、何の原因もなく、泣言を云出して、丁度平らな坂を下の方に。だん／＼と滑り出したとすれば、もう其人間はそれで止まることは出來ないのです、又彼を救ふことも出來ないんだ！　さうさ、奈何して僕が救はれるものですか？　何でもつて？　酒を飲むことは僕にや出來ない、飲めば頭が痛むのだし、拙劣い詩を書かうか、それも出來ない、或は自分の心からの怠惰の爲に祈禱して、さうして此の怠惰に於て、何か非常に高尚な、立派なことを認めることも僕は出來ない、怠惰は依然として怠惰だ、「薄弱は依然として薄弱だ、他の飾つた僕は名は有たん、破れたは、破れたのだ、話はもう要らないのさ。（後を顧みて。）邪魔をされんとも限らないから。ねえ、お前はもし僕を愛してくれるのなら、どうか、僕を助けて下さい、さあ今直ぐ僕を辭退して下さい！　さあ早く！……

サーシャ。あゝニコライ、お前に解つたらねえお前、がまあ其麼に私を苦しめてるのか！　本統に優しい、怜悧なお前は察して頂戴。ねえお前、那様問題を私に出すことが出來るのですか？　毎日新しい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

問題でだん〳〵それが難しくなつて行くのですもの……私活動される愛を欲しかつたのですが、それぢやまるで苦しめられる愛ですわ！

イワノフ。然し若しお前が僕の妻になつたら、その問題はもつと〳〵難しくなる。さあ、辭退しておくれ！　解らなくつちやいけない、お前の言には愛でなく、正直な心の剛情が現れてゐるばかりだよ。お前の目的は僕を眞人間にしたい、さうして救ひたひ立派に功をして見たいと云ふ其のことなのだ。それがお前に嬉しかつたのだ……で、今となつちやお前はその思想を後に引きたいと思つてゐるのだがたゞお前のある間違つた思想がお前に邪魔をしてゐるのだ、解らなけりやいけないよ！

サーシャ。何と云ふお前の論理は變な、さうして又殘酷な論理でせう！　私がまあお前から辭退することが出來ると思ふのですか？　奈何して私がこれを辭退されませう？　お前には母もなし、姉妹もなし、親友もなし……其上にお金はないし、お前の所有地は盜まれて、奪はれて、周圍からは皆に惡口されて……

イワノフ。あゝ馬鹿なことをした。僕は此處へ來たのは愚だつた、僕はたゞ自分の思ふ通りにすればよかつた……

（レベデフ登場）

第九齣

サーシャ。（駈けて行つて父を迎へる。）お父様、何と云ふのでせう、此の人をねえ、狂人のやうになつて、私をもう際限もなく揶(いぢ)めにゐらしつたの！　此の人はね、私の行末を悪るくするのが厭だから私との契約を、今、私に辭退せつて云ふの。ようお父様云つて下さい此の人に、私はねえ、此の人から可哀さうに思はれたり、憐を受けたりするのは厭ですつて！　私だつて奈何すべきだかは解つてゐますわ！

レベデフ。何だと、何だと、さつぱり譯が解らない……何の憐みだつて！

イワアフ。結婚は致さないんです。

サーシャ。いゝえ致しますの！　お父様有仰つて下さいよ、結婚は致すのです！

レベズフ。まあ、まあ待ちなさい！……何の譯で君は結婚が厭になつたのです、えゝ！

イワノフ。僕はその譯をサーシャに説明したのですが、此の人はそれを解りたがらないのです。

レベデフ。いゝや娘に(これ)でなく、俺に説明して下さい、ようく俺に呑込めるやうに！ああ、ニコライ・アレクセヰチ！　神はお前に裁判をするだらう！　然しそれにしても、随分我々の生活に霧を掛けたものだよ、何だか我々の生活は丁度博物館にでも入つたやうに、眴しても些とも譯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が解らん……奈何したらいゝものか……えゝ、この老人に奈何させる意(つもり)なのかい？　決鬪でも遣らせやうと云ふのか、それとも奈何なんだね？

イワノフ。何の決鬪も入りやしません、たゞ頭をちやんと肩の上に据ゑて、露西亞語が解りさへすりやいゝんです。

サーシャ。（上氣て息を反跳ませながら、舞臺を歩いてゐる。）それは余りですわ、余りですわ！全く幼兒ですわ。

レベデフ。たゞもう呆れて手を擴げるより外はない。が、まあお聞きニコライ！お前の考ぢや皆それは怜悧な、緻密な、總てが皆心理學の原則通りだと思ふかも知れないが、俺の考へるところぢや、これはまさしく侮辱だ、不幸だ。だがまあこの老人の云ふことを最後に一度聞きなさい！　なあ、お前さんはもう少しまづ落着いて、頭を冷靜に休めて見なさい、さうして物を見て御覽、平氣になつて人と人並にだね！　この世界のことは皆容易いことだ、有の儘だ、ねえ、天井は白いさ、靴は黑い、砂糖は甘いのだ。お前さんはサーシャを愛してゐる、サーシャもお前さんを愛しゐる、だから、それ、もしお互に愛してゐるなら其儘にしなさい、若又愛さんのなら、出て行くのがいゝだらうぢやないか、致方がない譯だ、ねえ、それ、這麼に造作無いことぢやないか！　二人とも壯健で、知慧があつて、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

道德家であつて、其上食物もあれば、有難いことには着物もある……でだ、まだ其他に何がお前さんに要るのか？　金が無いと云ふのか？　なに構ふものか！　金ばかりが強ち幸福なものとは云はれん……そりや勿論俺は知つてる……お前さんの所有地も抵當に入つてゐて、その上に拂ふ利子のないことも、だが俺も父だからには、俺は解るよ……なに母親は那云ふので金は出したがらないがね、構ふものか、出さなけりや出さないで金なんぞは入りやしないさ、シユーラは持參金なんぞは入らんと云つてる、なに金なぞを苦にすることは無い。やれ主義だのやれショペンハーウェルだのと那樣ことは皆下らないことだ……俺の所にも金は有るよ、銀行にね、一萬圓ばかりだが、（後を振返る。）そりや極く內證なんでね、家の中ぢや一匹の犬だつてそれを嗅付けちやるないんだ……そりや祖母から貰つたものだ……それをお前方二人にやるよ……な、取つて置きな、だが然し約束は金よりは大切で、あのね、マトウェイにその中から二千圓だけ遣つておくれ……

（廣間には客が集つた。）

イワノフ。パーシャもう話は無駄です、僕は僕の心で思ふ通り遣りますから。

サーシャ。私だつて私の心の儘に致しますわ、何とでも有仰ることはお好きに有仰い、だけれど私お前とは離れません。私

行つてお母樣を呼んで來ますわ。（出て行く）

第十齣

レベデフ。譯が解らないぢやないか……

イワノフ。いや聞いて下さい……もつと話しますから、だが全體僕は何であるか、正直者ですか、或は陋劣漢ですか、或は壯健なものか、或は又不健全なものか、もう這麼こととは云ひますまい。貴方に那樣ことを云つたつて解りやしませんから。さうです、僕も前には、年も若く、熱情もあり、正直な、怜悧な人間でした、人をも愛し、恨みもし、人と異つた信仰も有つてもゐたし、よく働きました、望は十人分も有つてゐました。さうして風車と格鬪もし、額を壁に打附けたこともありました、要するに自分の力を量らなかつたです、生活を知らないで、考へないで、有丈の力を上げて、一度に總てを持上げたのです、それで背骨はぴしりと折れて、筋が延びて了ひました。僕はたゞ若い時代に急いで皆自分を消耗して了つたのです。過度の興奮と、過度の元氣と、過度の勞働とで、全く無暗に、無茶苦茶に消耗して了つたのです、だが又さう爲ない譯にも實際行かなかつたぢやありませんか。さうでせう、我々は人數が少なく、仕事はごつさり、ごつさりあるのですから！ 實にそれは澤山！ で、僕の奮鬪に對する生活の復讐は怎うも酷

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いのでせうか。僕はそれでとう〳〵精神的に脱腸をして了つたんです、三十歳になつてもう二日醉になり、もう僕は寢衣を着てゐるやうになつたのです、さうして重い頭を抱へて、懶い氣分で、疲れ果てた、脱腸をした、背の龜裂れた、信仰もなければ、愛もない、目的もない、たゞ人中に影のやうにうろ〳〵してゐるんです、まあ全體僕は何ものでせう、何の爲に生活してゐるのでせう、何を欲してゐるのでせう？ 僕にはもう戀愛も下らんし、優しい撫愛も甘たるいし、勞働も意味がないし、歌も熱心な演説も、總て皆下らん、陳腐だ。さうして何處へでも僕は例の鬱悶や、冷たい退屈や、不滿足や、生活を憎む怨恨を持ち歩くのです……もう僕の生活は破れて歸らんのです！ 貴方の前に立つてるこの三十五歳の人間は、もう實に疲れはてた、ぼろ〳〵に古びた、下らん骨折で全く押潰された奴です……僕は耻しさに堪へられない、自分の薄弱に對して愚弄してゐるのです。あゝ今僕の自負心は、甚麼に自分の心の中で憤怒つてゐるでせう、全く氣も狂ひさうに憤怒で、息を詰めてゐます！ （よろ〳〵して。）あゝ實に、實に僕はこれほどに自分を疲らしたのか！ こんなによろよろする程に……もう力がない！ マトウエイは何處です？ 彼が僕を家へ連れて行つてくれるだらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

客達。（廣間で。）あゝ花婿の冠持が來た！

第十一齣

シャベリスキイ伯。（出て來ながら。）この古ぼうけた借着の燕尾服……手袋もなしで……這麼ざまをしてゐるからつて、彼方からも、此方からも潮笑の眼を向けられる、冷かされる、笑はれる……えゝ厭になつちまう人間どもだ！

ボルキン。（花束を持つて、冠持の花の徽章を附けた燕尾服で足早に出て來る。）あゝあ！　何處ですか彼は？　（イワノフに）いや君、聖堂ぢやもう疾うから君を待つてゐるのに、何だ、君は此處で氣樂さうに、哲學を説いてゐるなんて。惡い調戯をやる人だよ！　全く惡い調戯をやる人だ！　君はさうして花嫁と一所に行くのぢやないんですぜ、別々に行くのです、君は僕と一所に行くのです、で、花嫁を迎へには僕が聖堂から一人で行けばいゝんです、君は奈何してそれを知らなかつたのですか？　何處から何處までも調戯をする人だ！

リヲフ。（登場。イワノフに。）あ、貴方は此處(こちら)ですか？　（聲を張上げる。）ニコライ・アレクセエチ、イワノフ君、僕は多くの人の前に於て廣告をします、貴方は陋劣漢です！

イワノフ。（冷淡に。）何とも有難う。

（大勢の人達は狼狽へる。）

ボルキン。（リヲフに。）それを貴方は卑劣千

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

萬です！　僕は貴方に決鬪の申込みをしますぞッ！

リヲフ。いや、ボルキン君、僕は貴方と爭論をするどころぢやない、口を聞くのさへも耻辱だと考へてゐます！　然しイワノフ君となら何時でも僕は決鬪を敢て辭しません。

シャベリスキイ伯。貴殿のお相手には俺がなりませう！……

サーシャ。（リヲフに。）何の爲にです？　まあ貴方は何の爲に彼を侮辱したのです？　皆樣待つて下さい、さあ貴方私に有仰いまし、何の爲にです？

リヲフ。アレクサンドラ・パウロウナ（譯者註サーシャを云ふ）僕は決して譯がなく彼を侮辱したのではありません、僕は何處までも正直な、至誠な人間として、貴孃の眼を覺して上げたい爲に此處に來たのです、さうして僕は貴孃に願ひますが、どうぞ僕の言を一通りお聽き下さい。

サーシャ。よくまあ、貴方はさう有仰られますね？　貴方は正直な人間で御座いますつて？　えゝ屹度さうでせう、そりや世界中で皆知つてをりませうよ！　ですがまあ何より先に、貴方は正直なその貴方の潔白な良心に訴へて見てから、どうぞ私に言つて下さい。全體貴方は御自分をようく知つていらつしやるのですか、或はそれとも知らないんですか！　貴方は今此處へ那樣正直な人間としてお出で

になつて、もう私を殺さないばつかりに、彼を酷く侮辱なさいましたでせう。ですがお聴きなさい、前に貴方は奈何でした、まるで彼の後を影のやうに、執拗く附纏つて、彼の生活の邪魔をなさいましたでせう。それは御自分の正直の義務を果す爲だと思召してね。さうして貴方は他人の家庭の中に立入つて、何だとか、彼だとかと批評をなさる、何處へでも到る處で惡口はなさる、其上私にも、又有丈けの知人にも、無名の手紙を書いていろいろ吹聴なさつたのでせう。それでゐて貴方は奈何です、貴方は始終御自分を大變に義に堅い、正直な人間だと自ら許しておゐでなさるの？ さうして又ね、ドクトル、貴方はそれが正直なことゝ思ひ込んで、あの病人の、此の人の先妻を哀れとも思はずに、ほんの御自分の疑ひで、始終彼の女に安靜を與へなかつたでせう。さうです、那樣まあ貴方は慘い、酷い、さうして卑しむべきことをしてゐらしつて、それでも貴方御自身は、此の上もない、第一番の正直者と思召してゐらつしやるのね！

イワノフ。（笑ひながら。）結婚ぢやない、議院だ！ こりや萬歲、萬歲！

サーシヤ。（リヲフに。）えゝ貴方、今思ひ着きましたか、眞の御自分を、お解りですか、ようく。本統に頭の廻らない、同情のない人達です！ （イワノフの手を取つて。）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さあ行きませう、彼方へ！　ねえお父樣も行きませうよ！

イワノフ。何處へ行きますか？　いや僕は今皆極りを付けて了ひます！　僕の若さは復活したのです、さあ、僕は又前のイワノフになつた！　（拳銃を取り出す。）

サーシヤ。（叫ぶ。）あれ、私知つてます、此の人、何をしやうと思ふのだか！　ニコライ、まあ、奈何しやう！

イワノフ。あゝ、長いこと坂を滑り下りた、今止れッ！　だ、もう澤山だ！　離れて下さい！　有難うサーシヤ！

サーシヤ。（叫ぶ。）ニコライ、あれ、奈何しやう！　早く留めて下さいよ！

イワノフ。構はんで下さい！　（舞臺の隅に駈けて行くなり、銃殺を遂げる。）

——幕——　（完）

瀬沼夏葉譯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

得たる『いのち』（感想）

西崎花世

私は今夜七時に河井先生のお宅で見合のやうな事をする。私は昨夜から今朝にかけて、「今日の七時」と幾度か思ひ續けて心を慄はせて居た。恐ろしい。座に耐えぬ程恐ろしく思ひ淋しく思ふ。寢ても寢られなかつた。起きても物を見る氣はしなかつた。身體の浮き上るような異様な然し新しい嬉しい果敢なさに眼を濡らしながらうつらうつら日を暮した。

　私の心の前に「命」が現れる、その「命」は私が私の至誠の聲を以て、創り出した「命」である。その「命」は私の力が得た「命」である。その「命」は眞摯であるに相違ない。それは私が眞面目であるから。その「命」は有爲のものに相違ない。私にはそれが信じられる。（二月七日）

○

大雪、十一時を過ぎて家に歸る　途中にて風の爲めに傘が破れ、坂の中頃にて下駄を切つた。雪明りの巾を足袋で歩いた。生田樣を見た。本當に若い、而して風采の無頓着な方だ。少しはにかんでゐられた。誠實である事は直ぐ私の最初の感じとなつた其の人は室に入つて來て河井先生とお話をはじめた。私はふるへて顔があげられなか

つた。長い間あまり私は俯目になつてゐて、肩の邊に輕い痛を感じたりした。私の得た「命」は嫩葉のやうに伸び易く、柔かに見える。私はこの「命」に私を生かせる事が出來ると信じる

（二月七日十二時）

○

大雪になりました。昨夜は無事にお歸りになりましたか。御案じ申て居ます。御話しになつたお手紙をお待ち申して居ます。

（二月八日朝）

○

我汝を愛す。この一語を以て、私はこの手紙を書き始めます。

私が始めて御身の名前を知つたのは、つひ一週間程前のことでした。私は偶然「戀愛及び生活難に對して」と題する御身の感想を讀んで、忽ち異常な感激に充たされました。私の感激はそのまゝ私を沈默させて置かない。私は取りあへず「新潮」の二月號に現はるべき私の「人格的評論」の中にその批評を書きました。然しそれは批評と云はうよりも、私の感激の表白で、御身に對する敬意と無意識の愛とを現はしたものでした。

私は御身に對する戀愛をだん／＼と明白に意識して來ました。一週間經過した今はもう私はこの意志を御身に傳へないではゐられなくなつたのです。然り、私の命は明

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

日はもう無いかも知れぬ。また御身は明日いかなる人を愛し、いかなる人に愛せられるかわからぬ。けれども、私が御身を愛したと云ふ事は、必ず御身に告げて置かなければならぬ。此故に私はこの手紙を御身に送ります私はこの外に、私の愛を御身に傳へるべき穏當な手段、若くはその捷徑を發見することが出來ませんから。

私は御身の感想に對する批評を書き終つてから、御身についてより詳しい事を知らうと欲した。それで早速もと青鞜社と關係の深かつた生田長江先生の御宅へ伺つて聞いて見ましたが、唯何でも「女子文壇」の訪問記者として生田先生のところへ、一度あなたが來られたことがあると云ふ事しかわかりませんでした。その時先生は、あなたのいかにも苦勞して來た人らしい謙遜と、柔かな感じとについて話された。その謙遜は私の最も愛するところで、あなたの文の明かに示してゐるところです。

歸つてから、私は「昔の男に對して」と自己の或る心に與ふ」とを讀みました。私は既に御身の過去と現在と、御身の靈と肉とを悉く理解したやうに信じます。御身の感想は悉く血と涙を以つて書かれてある。御身の心中には、偉大に對する渴望がある。御身は未だ明白に意識し得ぬ　ある理想を抱いてゐる。それが柏車のやうに御身を驅るやうに思はれる。要するに、御身は未だ

芽にすぎない。けれども私はかゝる芽をふかく尊重する。

私は長いこと愛すべき女性に渇望してゐた。しかし或る者はあまりに淺薄不眞面目であつた。或る者はあまりに平凡であつた。或るものは虚僞であつた。愛すると共に敬すべき女、若くは人格的に愛すべき女性はこの世に無いのではあるまいかと私は疑つた。然るに今、私はあなたを見出した。私はあなたを愛せずには居られない。

私は人としての御身を敬し、女としての御身を愛したいと思ふ。二人の關係は友達でもいい、戀人でもいゝ。夫婦でもいい。否その凡てであらねばならぬ。そして私があなたに取つて、最も價値あるものでありあなたが私に取つて最も價値あるものでなくてはならぬ。二人は相獲て、また相失ふべからざる人であるのを感ずる。今私があなたを獲なければ、二人の生涯は共に誤つた、不完全なものとなることを信ずる。

私はあなたの容貌を知らない。世間の人の云ふ美貌は私には何等の價もない。私はあなたの精神を見た。それは美しいものであつた。そして私は靈と肉とを同一のものだと信ずるが故に、私はあなたの肉體を美しいものだと信ずる。世間の人の云ふ内容のない美、死んだ美を私は愛しない、言ひ換へれば美と認めないのです。私の認める

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

美は生命のある美なのです。よし世間では美と認めなくとも。

あなたの感想文はどりも直さず、あなた自身の肖像ではありませんか。私はこれを外にして、あなたの肖像を求めようとは思ひません。

私はあなたを愛する。

私は自分をあなたの求めてゐられる男子だと信じます。私は総世あなたの友として、あなたの戀人として、あなたの夫として、あなたを愛すべき男だと思ふ。

然し私はいかなる人間であらうか。いかなる男であらうか。私はあなたの書いた各行にこの間を讀んだ。私はその各行を引き來つて、自分の答をあなたにしなければなりません。けれども私は只僅かの文字しかこゝに書くまいと思ふ。私の人物は自分の吹聽にも、先輩の推奬にもよらず、只あなた自身の眼によつて判斷して頂きたいと思ひます。

私は才子ではありません。私は氣の利いた人間ではありません。けれども誠實と熱情とをもつて居ます。そしてあなたの「昔の男」はそれを持つてゐたでせうか。私は自らあなたの「昔の男」とは正反對の人間だと思ふ。

私の中には英雄と赤兒とがある。その英雄とは理想家たるヒユウマニストたる私に かりに與へた名稱で必ずしも小兒の觀念中

の英雄ではありませんけれど、この英雄があなたを翼のうちに抱へて美しい天に連れて行くと共に、私の中の小兒は、即ち日常生活の中の私はあなたに育てゝ貰はねば、あなたの乳を吸はなければ大きくなる事が出來ないと思ひます。私があなたの父であると同樣に、あなたは私の母でなくてはなりません。

『私は私を眺めて血に濡れてゐる女を見た。泥にまみれて來る姿を見た。あの弱い女がよくあれだけの忍ぶ事をした。よく耐へた女であつた。よく切り拔けた來た女であつた。この女のあはれな穩忍の生活はみじめであつた。この女の戰ひがどれほど性質惡い戰であつたか』云々のところを、私は涙なくして讀む事は出來なかつた。

あなたは苦んで來た。あなたの苦みはどれ程であつたらうか。神がこれを知るのみだ。あなたの戰は惡戰苦鬪であつたに違ひない。あなたの胸は今も血を流してゐるのに違ひない。さう云ふ苦痛を私も嘗めて來た。あなたが自活して來てから十年になると云ふ、私も苦痛の中に一人育つて來てから十年になります。私は今ここで自分の經歴を語らうとは思ひませんが、私は底の底まで貧乏と云ふ苦いものを味つて來たのです。私は自らゲエテの所謂『涙に濕うたパンを食て、寢られぬ夜を泣き明かした』人間だと信じてゐます。かくて私は始めて人

間となる事が出來た。私は自分の貧しいのを恥としない。私はこの人格をもつて立つ私は私の眞の男子であるのを感ずる。とまれ、私等は同一の苦を甞めた人間てある。

けれども孤獨はいかに寂寥であらう。たゞ一人戰ふと云ふ事はいかに心細い事であらう。御身も必ずやかゝる思ひを經驗してゐられるに違ひない。

人ひとりなるはよからずとはヱホバの言葉である。アダムはイヴを要する。

けれども今私は御身を愛する。私の心は御身なくして生きて行かれないのを感ずるそして御身も亦私なくしては生きて行かれない人となることをかたく信ずる。御身は私のイヴである。私は御身が私を御身のアダムと見ないとは信じられない。さうすれば、我々は決して孤獨ではない。我々は手を携へて進む事が出來る。我々は更によき戰を戰ふ事が出來る。

私は御身の現在の生活のいかに慘憺たるものなるかを見た。御身のに比ぶれば、私の生活は尙多少の餘裕を存じてゐる。私は私の愛するものを一日でも餘計苦しめたくない。私は自分の戰友の危急にどうして一刻も傍觀してゐられよう。私は愛する御身を顧みないでゐる事は出來ぬ。私は御身と生活を倶にしなければならぬ。勿論私はその爲め御身が、もはや其日の生活に困ることのない身分になるものとは云はぬ。けれど

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

も我々が夫たり妻たるときには、いかにその日の食に困り、理想にいたる路のけはしきに、灯なき部やに二人相抱いて、幾夜かを泣き明かすとしても、我々はいかに幸福であらう。勵ましつ、勵まされつ、助けつ助けられつ、敬しつ敬せられつ、愛しつ、愛せられつ、我々は人類のために戰ふことが出來る。

私の愛は戲れでない。私はこの愛を苦痛の中に育てゝ行きたい。涙の中に結びたい。私は曾て左のやうな斷片の詩を作つた。

涙は戀のなかうどなり、
軟かになりし心に愛は泌み入る。
幸福の與へし戀は不幸に破らる。
されどかなしみの結びし戀はよろこびに破れじ。
ああ破船の後たゞ二人殘りし男と女との戀！
破られし船に海水はたのしく押入る
やぶられたる胸に愛はたのしく忍び入る。

まことに私とあなたとは破船ののち、無人島にたゞ二人生き殘つた人間ではありますまいか。私は今日この日から、新しい二人の生活を築かなければならぬをの感じます。我等の戀は不幸から生れなければならぬそして美しい晴々した青空に飛んで行かなければならぬ。

殘念ながらあなたは未だ私の書いたものを見られた事がないやうに思はれる。私は

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

未だあまりに僅かしか書いてゐない。私は現在に生きず未來に生きてゐる。けれどもあなたの感想があなたの肖像であると同様に、私の書いたものは私の自畫像なのですから、あなたに讀んで頂きたい。それも、然し僅かの詩と飜譯と二月から書き出す事になつた評論とにすぎません。

私はあまりに高い野心を抱いてをりますこの大望は俗人の嗤ひを買ふにすぎぬであらうが、あなたにはまつさきに打ち明けなければならぬ。卽ち、私は人類を救はうと思ふ。そのため私は藝術家になるかも知れぬ。宗教家になるかも知れぬ。けれども金持にならうとも華族にならうとも思はない卽ち氣樂な生活の人とならうとは思はない。だから私がいかに御身を愛してゐようとも御身が金持を愛し、氣樂な生活を好む人ならば、私はそれを知ると同時に自己の迷を悟つて沈默して、再び一人の道を辿らなければならぬ。けれども私は御身がそんな女だとは信じない。私は御身に對する私の愛を神の與へたものだと信じてゐます。

私は御身を呑氣な生活の仲間とは思はぬ理想家の辿るべき、苦痛の旅の道連れだと思ふ。互に慰め合ひ、導き合つて、少しでも高いところへ行きたいと思ひます。

求めよさらば與へられん。この眞理は御身のための眞理であり、また私のための眞理である。されば、私はこの私の大なる突

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

然の戀愛が御身を驚かし度を失はしめるものとは信じない。これは本當に突然であらうか。否、私は御身が私を求めつゝあつたのを知つてゐる。丁度私が御身を求めつゝあつたのと同じやうに。

御身の『私は私の夫の具體的の存在を求めてはゐまい』との言は何と云ふ悲しい言葉であらう。けれどもそれは本當ではない。否、それは御身がその夫に自己の存在を想起せしめようとした言葉だと思ふ。

私は御身の今幸福なるを云ふ。私自身幸福であるから。私は今御身に於て、寧ろ、失つたものを再び手に返したやうな喜びを感ずる。恐らく幾千年の前、我々はやはりかうした幸福を味つた夫婦ではなかつたらうか。

また考へて見ると、私は既に今は身の夫であるやうにも思はれる。我々は離れてゐる。離れた處で別々の仕事をしてゐる。それで今御身に逢ひたくなつて、この手紙を書いてゐるのではあるまいか。私は御身を愛する。私は今既に御身を抱いてゐるのを感ずる。私は夫である。御身は妻である。私は御身を愛する。御身もまた私を愛するであらう。

私はこの目前の世界の外に、電車が走り自動車が行き、あらゆる僞りと不正との行はれるこの世界の外に、別に一個の世界を自分の中にもつてゐる。この世界をそのま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゝ目前の世界に移して來ようとするのが、私の欲望であり、同時に使命なのです。私はあなたをその世界の中に導き入れずには居られぬ。あなたは自ら小さな女だと云ふ。あなたは眞珠だ。私はその眞珠を採つて來て磨くべき人間ではありますまいか。あなたは私の生活を飾り、私の額の汗を拭つて下さる。そして私はあなたの「我」を引出し、あなたを今より更にすぐれた女とし、あなたの涙を拭うでせう。あなたは私にないものを下さるであらうし、私はあなたに缺けてゐるものを差上げるでせう。プラトオの說はいかに詩的であらう。かくて我々二人は一個の完きものとなるのです。愛なきところに生命はない。愛し愛される事なくして、人はどうして生きて行く事が出來るであらうか。そしてあなたは既に私の「自我」の一部となつてゐる。私は今あなたの喜びと苦みとを自分のもののやうに感ずる。

多分私はあなたより年が若いかも知れぬけれどもそれが何であらう。私があなたのよき夫たるべき唯一の男子たるに何のさまたげがあらう。

あなたが曾て多くの男を見、多くの男に苦んだのは、只私を獲んがためだつたのです。同時に、私が多くの女を見、多くの女に苦しんだのは、只あなたを獲んが爲めだつたのです。

私は曾て○○○○○○○○○○○○を見た。そのため私はこの手紙を書くに餘程

の躊躇を覺えました。何だか○○○と同じやうな人間に見られはすまいかと恐れたからです。けれども私は決して輕薄な人間ではない。私は苦勞をしてゐる。私はここで○○○○○○○○○○○○○○○○○私は何よりもあなたが愼重な態度をとつて、私を十分批判して下さるやうに希望します。私は夢のやうな戀はしたくありません。私は打算的な戀を忌むと共に、○○○○浮いた戀を好みません。あなたは一個の人として自己に耻ぢないやうな態度を以て私の言葉に對して下さるでせう。私も亦立派な人間としての態度であなたに對する。

世の多くの人の戀愛は虛僞の上に立つ。彼等はみえを張り、少しでも体裁をよくしたいと努める。互に上面（うはべ）だけの体裁をつくろつて、いゝ加減の事をいつてゐる。其結果彼等は自らその罰を受けるのです。けれ共私は何等の虛飾もなく御身に對したい。同時に何等の虛飾もなく御身の私に對せられん事を望みます。私は赤裸々なる私の全身をあなたにお目にかけませう。さうすればあなたは私の凡てを知る事が出來る。そして「あなたは私の人格を尊敬されるでせう。只皮相の判斷を下してはいけません。私も亦皮相の判斷に迷はされまいと思ふ。人間である以上二人とも多少の欠點はあるでせうが是れは互に矯正して行きたい。

私は今期待に燃えてゐます。早く一刻も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

早くあなたを見なければならぬ、あなたと語らなければならぬ。然るに私はあなたのところを知らない。私はそれを知る道なきに苦んだのですが、「女子文壇」と云ふ一事から河井醉茗氏に聞けばわかるだらうと思ひ、早速同氏をたづねて、場合によつては氏の手を通じて御身と逢つてもいゝと考へました。尙同氏にきいてわからなければ、あらゆる手段を盡して探らうと思ひます。とまれ、この手紙は書き了ると共に封じて、御身のところを知るまではかたく身につけてゐようと思ひます。

今私は大きい聲で叫んだ。山彥はこれに答へるであらうか。私は答へると深く信じてゐる。若し答へなければ——それは信ずべからざる事である。以上が例の昨夜お話した手紙なのです。このあとの文句は一度逢つた以上は無用のものなので除いてしまひました。

唯今はお葉書ありがたうございます。あなたこそ無事に歸りましたか。電車賃など借りて若しそれがあなたのあの時持つてゐた最後の金で、さう云ふ事を私に言ふ事が出來ないため、自分は步いて歸つたのではあるまいかと、一晚それればかしが氣になりました。無事に歸りましたか。昨夜雪があんなにつもつたのも何だか意味があるやうに思はれます。あなたと詳しい話の出來な

かつたのか何より殘念です。十三日頃には少しひまになりますから(それ以内だつてかまひまんが)下宿へ來て下さいますか。何しろ人の多い下宿だから、あまりいゝ感じはしないでせうから、やはり長江先生のお宅がいゝかも知れません。二階があいてゐるのですから、又先生の奥樣にもお目にかかつてお話を承つた方がいいと思ひますから。

あれだけ話したばかりでは、私の人物はよくおわかりにならなかつたでせう。よくわからないから、あなはまだ私を愛する事は出來ないでせう。いかがです。

今仕事が八方から身體を取卷いてゐるため氣が落ちつきません。御手紙下さい。待つてをります。

生田樣より。

(未完以下次號)

山を去りて ——三ケ島葭——

いと淺き夢と浮名に促されわが去る山に春ぞ來れる

苦しさを洩らせしのみに忍びつつありし六とせの甲斐なくなりぬ

急ぎきて汽車の出でたる小さなる停車場の灯に見いでたるわれ

ああ今日は君が待てると待たぬとにかかはらでわが行く日なりけり

別れをば惜しむと見らるひとりゆく身の寂しさに涙落せば

入相の鐘のなごりを鶯の初音と聞きてわが春を愛づ

異なりぬ君が悲しと言ふことをわれは嬉しと思ふさばかり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おのづから知りうる日などあらざらん我はなどかく君の戀しき

死ぬばかり戀しと言へどいつはりとなしたまふこそうれしかりけれ

父母をたのみて歸るわれは世のみなしどよりもあはれなるかな

何といふ寂しさならんうらうらと朝日はさせど起す子もなし

わが身いと安らかなれど不思議にも心をどらぬ故郷の家

戸開くれば東京の空さまざまの汽笛霞をめ夢のごと鳴る

いつの日の我にならひて君はかくつれなきことを言へるならまし

何にてもあらざりしかど別れたる心地するまで近づきにけり

火の柱すこしゆがめば君ははやつめたき家と言ひてやどらず

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

糸のもつれ

小林哥津

人名

文治　藤屋の息子
おしん　文治の妹
お絹　文治の嫁
銀之助　養子
おすみ　文治の母親
清吉　職人
元三　同
金次郎　同
おうめ　おしんの友達
お常　同
女中、小僧、使ひにくる若い者等。

現代――櫻のさかりの四月上旬

昔からの江月特有なある氣分の流れてゐるある町にあるきせる師、藤屋の家。

――この町のすぐ近くを流れてゐる川をこいで行く花見船の浮かれ三味線が、遠く、かすかに、夢のやうにたゞよつてくる。その響がだん／＼にうすく消えて行くひまにしづかに幕があく。

舞臺は横に、店と土藏の間の小座敷との二間になつてゐる。

店と座敷のしきりには下手より正面を一間半ばかりの細格子がたつてゐて、あとは茶色の壁になつてゐる。そこには注文帳だの、大福帳だのが、ごつさり、かゝつてゐる。その下は帳場になつてゐる。

上手には土藏の入口が見える。下手は唐紙が二枚た

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つてゐて、そこをあけると他の室へ行かれるところ土藏を上手正面の壁との間の細いところは茶の間へ通ふ口。

細格子は兩方に開いたまゝになつてゐる。店の入口にはガラス戸がしまつてゐて、紺の、のれんの裾がそのガラス戸の上に少しのぞいてゐる。店の片側半分は帳簿格子のやうなのをたてまはして、細工場になつてゐる。それと反對の方の側には抽出しだの、組箱だのが重つて置いてある。店はきちんと奇麗に片づいてゐる。座敷と店との間のかもゐには勘定風に「櫻ばり」「お召張」などと書いた細い紙がさがつてゐる。

午後四時をすこし過ぎた頃の日ざしがこのせまい部屋の天井にとつた、あさがほからうつすらとさしこんでゐる。曇日と見えて白々といやにすじをいいてゐてその光線の工合がこの部屋をばかに陰氣ぽく見せてゐる。櫻のさかりの四月上旬だとはとても思へない——丁度冬の日の黄昏のやうに部屋の隅々には黒い冷たいかげが落ちてゐて、落付いてはゐるけれど、ほんとうにしんみりした氣にはなれないといふやうな感じのする部屋。

おすみ（四十七八）が何かしきりにあかりとりの下へたとうをひろげてさがし物をしてゐる。お絹（二十五六、かまはない風）は店で使ひに來た若い者と話をしてゐる。

若い者。——四分一の方だけは一つ大急ぎでねがいたいんでございますが、如何でせう。

お絹。かしこまゐりましてす。只今何日と云ふ事はわかりかねますがなるべく大急ぎで——出來次第お屆けいたします。

若い者。ぢやどうぞ、くれぐれもお早くねがひます。お邪魔いたしました。ではさ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

よなら。

お絹。御苦勞樣でございました。どうぞお店へもよろしく。

若い者。はあ――ごめん下さいまし。

若い者は行つて了ふ。お絹は紙づゝみを帳簿へおいて、おすみに向つて座る。

おすみ。（ふつと顔をあげて）藤屋さんかい。

お絹。えゝ、注文が二本と、なほしを一本もつて來たんです。なほしの方を急ぎですつて。

おすみ。そうかい。

お絹はそこにおいてあつた華美(はで)な着物へ黑い襟をかけはじめる。

お絹。でもまあ、どうやらもちましたね。

おすみ。あゝあ、今朝の樣子ぢやけんのんだつたけど――そろ〳〵皆もかへつてくるだらう。もう大分舟もかへるやうだね。

お絹。さうですね、囃子が又聞えてきましたね。

店の方で人のけわいがする。――そこにはさつきの藤屋の若い者がたつてゐる。

若い者。先き程はしつれいいたしました。

おすみ。（立つて行きながら）おや何かお忘れものでしたか。

若い者。いゝえ――あのさき程一寸申上るのを忘れましたのでござんすが……。

おすみ。あゝさよでござんすか。

若い者。あの昨日、こちらの文さんが實はお見えになりまして、何か細工ものゝ前借りをといふやうなお話がございました

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のですが、丁度主人は留守でございましたし、——あのう、過日、こちらの親方からのお話もあつたことですし、實はそのまゝお渡しをいたしませんでしたが、あれは如何やうにいたしませうかと、一寸お伺ひするやうにと番頭さんが申しましたのでございますが。

おすみ。（當惑な面持）へえ、まあ文治がさう申して出たんでございますか。

若い者。はい。

おすみ。まあさよでしたか。——あの、あれは御存じの通り只今宅にもをりませんやうな始末で、この後は又何を申して、出ますか存じませんが、もう一切、あれが云つて出ますことはおとり上げになりませんやうに、と、どうぞお仰つて下さいまし。

若い者。はあ、さよでございますか。——ではごめんこうむります。さよふなら。

おすみ。さよなら。ごめんなさいまし。

おすみ元のところへもどつてくる。

おすみ。（心配らしく顔を曇らしてゐる）文にも困つちまふ——藤屋さんへまであんなことを云つて行くやうぢやえね。

お絹——無言。何と云ふてよいかわからないさ云ふやうに、心配らしい色を目にためて無言(だま)つてゐる。

おすみ。ほんとうに、あゝも困ると惡智慧が出るもんかね。前借りをしたいなんて、平氣で家にゐるやうな顔をして行くなんて。

お絹。——まあどこに一體ゐなさるんでせう。

おすみ。どこにどうしてゐるんだか……——お前、金のまわりが惡くなればあの女が何で相手にしるつて。をゝかたそこいらをそんなことをいつちや、ほつつきあるいてゐるんだらうけど——今になつて見るとあたしや、あゝして勘當なんてしたのが大間違ひしたと思ふんだよ。お父さんは懲しめだ〳〵だと云ふけど、こらしめどころか、あゝやつてお前藤屋さんでも、なんでも騙同然な有樣をして行つてさ。ね、よくせきお金に困るからそんな了間も出るんぢやないか。——馬鹿でない限りはこいでつかうだけつかつたら自然と自分から分別がついて來るだらうと、あたしは思ふんだけど、お父さんにそれを云へば、あいつは馬鹿だから、とても、こつぴどい目に一遍逢なければ目が覺めないと云ふんだけど。——又文も文だね誰れかを賴んで、わびをしようとわしないで、惡い事ばかりを考へてさ。

お絹はいつか仕事の手をやつて、すゝりなきをしてる。——おすみはふつとそれに氣がつく。

店の方で五時をうつゆるい時計の音がなり。

おすみ。(ふつと氣を代へたやうに)おやもう五時だよ——愚痴を云つてゐるうちに日が暮れちまつた。——こんな愚痴を、百萬遍くりかへしたつてはじまりやしないねえ

お絹。(顏をくもらしたまゝ)もう皆も歸へつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てくるでせう。

おすみ。あゝ――だけどお絹、今日の藤屋の事はお父さんに決して云はないでおゝきよ、

お絹。えゝ。

おすみ。そのうち折を見て、何とかするやうによく話をしやうから。……

茶の間への通ひからおしん（十五、ゆいたての、結綿島田）が入ってくる。

お絹。あらつしんちやん――

おしん。たゞ今。早やかつたでせう。

おすみ。あゝ早やかつたね。

お絹。どら後をむいてごらんなさい。大變今日はいゝちの工合がいゝこと――

おしん。そう。

おすみ。あゝ大變よく出來たよ。

お絹。ねお母さんしんちやんは、高齢よりずつとこの方がようござんすね。

おすみ。あゝ、紅い鹿の子はほんとうに可愛くつていゝもんだよ。

おしん。そう。――おうめちやんは、とき色と藤のすが糸をばらつとかけたのよ。

お絹。それもいゝわね、さつぱりしてゐて。

おしん。あたしも今度は、すが糸かけませうか。

お絹。かんざしはどうするの。

おすみ。今夜買ひに行くの。おうめちやんだのお常ちやんだのと、もうちやんときめてあるのよ。

おすみ。おやまあ早いね。――

おしん。――やつぱりつまみでね、ほら菊

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つて人の紋。
お絹。あらッ大變だ。皆なそうなの。（笑ふ）
おしん。えゝえ。音羽屋、いゝわね。
おすみ。（笑ふ）また早やまつた。――
おしん。だつていゝわ。――（不意と思ひ出したやうに）あ、そう／＼さつきね、淡島樣の石橋のところで兄さんに逢つたのよ。
おすみ。えつ兄さんに。どんな風をしてゐたい。
おしん。どんな風つて、――少しよごれた羽織をきて。
お絹。よごれた羽織――そして口きいて。
おしん。えゝ――あたしはな、ちつとも知らなかつたんでせう。後からおしん公おしん公つてよぶ人があつたのよ、それが兄さんだつたの。

おすみはもう何にも聞きたくないといふやうに、ため息をのこして唐紙の方へ出て行つて了ふ。

お絹。（熱心に）そいでどうして。
おしん。おしん公どこ行くんだつて云ふでせう。髮結さんよつて云つたの。――そいから何か買つてやらうかつて云ふの。あたしだまつてゐたのよ。そうするとね。ねえおしん公お前、お聟さんの銀さんと兄さんとどつちが好きだつて、いきなり云ふの。
お絹。（淋しい笑ひ）そう。
おしん。あたしもう厭になつちまつたの。そしてね、銀さんは姉さんと仲がいゝかいつて云ふの。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お絹。（厭な心持）まあ。

おしん。あたしそんな事知らないわつて、ずん〳〵一人で行ちまつてやつたの。

お絹。（無言。たまらなくかなしそうな様子）

おしん。（一人言らしく）――少し酔つぱらつてゐたのよ、きつと。

二人とも無言つて了ふ。――忘れたようにさぎれてゐた花見船の雑子が、またに、やかに、遠く聞えてくる。――おすみが唐紙の方から入つてくる。

おすみ。（さつきの話をわざりさけるやうに。）どん〳〵舟がかへると見えて、大變、にゝやかぢやないか。

おしん。ほんとにね。――ねえお母さん、あしたは大丈夫でせうか。

おすみ。さあね解らないね。

おしん。あら大丈夫よ、ね姉さん。

お絹。（聲がつまりてゐるのをやつと出すやうな苦しい調子）えゝ、大丈夫ですとも。

おしん。ほらごらんなさいよ。お母さん、

おすみ。お師匠さん何時からお出なさつてそ云つたい。

おしん。九時よ――きつかり九時までにお師匠さんと行くの。

おすみ。しんちやんごらん。着物がもう出來たよ。

お絹は、縫つてゐた着物をたゝみはじめる。

お絹。あとは襦袢の袖をつければいゝんです。

おすみ。そうかい、御世話様だつたね。

おしんは落付かない足どりで店の方へ出て行く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お絹は仕事を土藏の方へもつて入る。――大聲でおしんが「お母さんみんなが歸へつて來たわ」と云ふ。

おすみ。そうかい。

お絹も店へ出て行く。

おすみは電氣をつけたり、そこいらを片付けたりしてゐる。

店の方は急に、ざわめいてくる。――と思ふ間に元三、清吉、金次郎、銀之助、小僧女中などが、入つてくる。

銀之助は櫻の赤いかんざしを、おしんにわたして一番さきに座敷へ入つてくる。

銀之助。(二十二三)只今――

おすみ。御苦勞樣だつたね、――どうでしたいお花は。

銀之助。さかりですね。――どうも大した人出でした。

職人達、小僧女中なども皆なおすみにあいさつをする。女中は茶の間の方へ行く。あとの者は店の上り端に腰をかけたりしてくたびれたといふ風に休んでゐる。

おしんも一緒になつてそこに坐つてゐる。

舟の囃子がきこえはじめる。――といつか又だんだんきこえなくなつて了ふ。

銀之助が手拭をもつて出てくる。

おしん。どこ行くの。

銀之助。お湯――

銀之助は店の方から出て行く。

おしん。皆なは行かないの。

清吉。後で、――これからもう一度、お花

見に行てから。

おしん。又お花見に行くの。

金次郎。——え〵、さつきのお花見は木のお花見でせうよ、こんだはほんとうの人間のお花見になんですぜ。

元二。えおしんちやんわかりますか。

おしん。（ふいに笑ひだす）あ〵わかつたわ。——吉原だらう。——いやな人。

女中が茶の間の方で姿を見せる。そして「おしんちやん、お湯」とよぶ。

おしんが立つて行く。

——もう外はいつかすつかり暮く夜になつて了つてガラス戸を通して見へる向ふの家の軒燈がきらきらとかゞやいてゐる。——家のなかも夜になつてあかりが灯いてからめさめたやうに、陽氣になつてきた。

元二が立つて茶の間の方へ行く。——間もなく出てくる。その後からおすみもつゞいてくる。

おすみ。まあ御苦勞樣だねえ。又夜櫻へ出かけるなんて。あたしなんかもうたのまれても御免んだね。

元二。——ぢやお上さん、行つてまゐります。

おすみ。吉は行かないんだらう。

小僧。え〵。

おすみ。ぢやこつちへ來て御飯をお上り。

元二と金次郎と清吉は「云つてまゐります」と云つて了ふ。

おすみ店へ立つて外を見てゐる。

銀之助が入つてくる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

銀之助。只今。あゝ疲(くたびれ)れた。

おすみ。あいよ。——お湯へ入つてくると一時にすつかり疲(くたびれ)が出るもんだよ。

銀之助は上りはなに腰をかけたまゝでゐる。

銀之助。あゝあ、ほんとうにそう云つても。くたびれて了つた。

おすみ。お淺どんなんか、もう足がぬけそうだつて云つてゐるよ。

銀之助。そうでせうよ。——何しろ汽車へも電車へも、のれないんですもの。音無川のところからまつすぐに根岸をぬけて歩いちまつたんですもの——隨分ありますからね。

おすみ。さうだつてね。

銀之助。散らないうちに姉さんと行つて見たらどうです。

おすみ。さうさね。公園へ行つて夜櫻でもみて來るかね。——夜櫻つてば。みんなは又出かけたんだよ。

銀之助。吉原(なか)でせう。——さつきさつとまわちまふつて云つたんだけど、そいつは願ひさげにしたんです。

おすみ。皆なあきれちまふ足だね。

銀之助。(微笑)

(間)

おすみ。あゝもう御飯の仕度がよかつたんだよ。さあ行かう。

おすみと銀之助は茶の間の方へ出て行く。

おしんがいつか歸へつて來たものと見えて、時に高い笑い聲がきこえる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

（長い間）

店の戸が開いて、おうめとお常が立つてゐる。

おうめ。しんちやん。しんちやん。

おしんの答がする。——やがて登場

おしん。もう行くの。

お常。あゝ、——未だ御飯？

おしん。うゝん、もうあたしはすんだの。

おうめ。ぢや行きませうよ。

おしん。ぢやことわつてくるわ

おしん退場。

おうめ。しんちやんは鬢がよく出るね。

お常。あゝ、毛がいゝからね。——

おしんが羽織をきかへて出てくる。

おしん。さあ行きませう。

三人とも行つて了ふ。

時計が七時をうつ。——

しばらくして銀之助が出てくる。帳簿へ座つて、新聞をよみはじめる。——お絹登場。

お絹。そう〳〵、銀さん、万屋さんからさつきお使ひでしたよ。

銀之助。そうでしたか。——何でした。

お絹。そこにのつてゐるでせう。注文がきがついてゐる筈です。そしてね、そのなをしの方を大急ぎですつて。

銀之助。大急ぎですつて。

お絹。えゝ出來上りしだいこちらからおとゞけしますと云つてをきました。

銀之助。そうですか。

銀之助はそれをもつて細工場の方へ行く。お絹は土藏へ入つて、さつきのつゝみをもつてくる。——銀之助はやがて何か箱をもち出して、店の眞中に座つてやりはじめる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おすみ登場。

おすみ。（きせると煙草をもつてゐる）あしたは、よさそうだね。星が出てゐるよ。

お絹。おやそうですか。しんちやんのてる／＼坊主がきゝましたね。

おすみ。そんなものをこしらへにのかい。

お絹。今朝何だか一生懸命にやつてゐましたよ。

おすみ。そうかい。──あれはいつだつたか、──あゝお前の來た春だつたね、文治とおしんをつれて、四人でお花見をした事があつたらう。あん時もおしんがてる／＼坊主をこしらへてさわいでゐると文治が、そばからふる／＼つて云つてね。──おしんが口惜しがつたつけ。

お絹。そうでしたね。そいでもあの時は降られたぢやありませんか。

おすみ。そうだつけね。あの日は梅若様だつたんだらう、うつかり出て了つて、涙雨のことなんかすつかり忘れてゐて、雨がふつてきて氣がついたんだあね。

お絹。なんでも、もう一重はたいがい散つちまつて、ところ／＼八重が咲いてゐましたね。

おすみ。──だけどやつぱり大した人出だつたね。まあ花時なんてものは、人の心持が、すつかりはしやぎかへちまつてゐると見えてあのしよぼ／＼ふる中を平氣で、踊つて歩ひてゐる人があつたぢやないか、又それを傘もさゝないで、立ちご

まつて見てゐる人もあるし、ほんとうに
まるで、狂氣みたいなもんだねえ。

お絹。そうでしたね。梅若樣のかけ茶屋で二時間も小やみを待つてゐたぢやありませんか。

おすみ。そうだつたね。——

ふつと話がとぎれる。——銀之助が、又帳場へもどつてくる。

銀之助。あゝ、今夜はよした。

お絹。およしなさいよ。いくら急ぎだつて。今夜なんか仕事なんぞ、出來るもんですかね。

おすみ。そうさね お前——かまふもんかね。

銀之助。何、ちよいと見とくだけ見とこうと思つたんですけど——まあよしませう(間)お父さん明日かへるんですか。

おすみ。あゝ。多分明日だらう。川崎へ二日がゝりで行くなんて、——隨分ひらけないね。

銀之助。でもまつたくこみますからね。かへつてその方があぶなくなくつてよござんすよ。

お絹。まあお父さん見たいに用心深い方がほんとに、けがはありませんね。

おすみ。そりやそうさね。——

銀之助。明日はしんちやんがお花見ですつて。

おすみ。あゝ、そうだつてさ。一週間も前からさわいでゐるんだよ。——もうこい

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でいざ明日になると、樂しみは少くないね。

お絹。もう明後日（あさって）もう明日つて云ふ風にまつてゐるうちが一番樂しみなもんなんですね。――あしたはまあ、お天氣にしたいもんですこと。

おすみ。そうさね。――

銀之助。あのくらいのうちつてものは、なんにかぎらず、樂しみなもんですね。――

お絹。いやな銀さんだこと、まるで、年寄みたいな事を云つてゐるわ。

銀之助。そりや私だつて行つて見れば萬更面白くないこともないけど、あんなぢやありませんよ。

おすみ。まあ若い時にはたんと遊ぶがいゝさ。――ぢきもう自分に苦勞が出來てごらん、そんな氣にはなれないからね。

お絹。ぢや銀さんも自分の苦勞がそろ〳〵わかつてきたんですかねえ。

三人とも聲をあげて笑ふ。――その笑ひ聲がきえないうちにあわたゞしく店の戸をあける音がして、おしんが息をきつて駈けこんでくる。

おしん。（顔色をかへて）お母さん、大變よ、兄（あに）さん、兄さんが……。

三人とも無意識に店の方へたつて行く。――と思ふ間にひどい音を出でゝ、文治が入つてくる。――ひどく醉つてゐる。

文治。お絹、お絹。――

お絹は不意に、をこつてきた驚きに氣を失つたやうに呆然とそこに立つたまゝでゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

文治の目がそこにゐたお絹にとまると、いきなり、肩先きをつかんでひきたをして了ふ。

おすみ。――あつ馬鹿なまねをおしでない。

おしんは銀之助後でないてゐる。

銀之助。文さん、そんな亂暴をしちやいけない。――姉さん早く、お逃げなさい。早く……。

銀之助は文治の手から、手早く何か光るものをとつて了ふ。お絹は文治の手をすりぬけると茶の間の方へ駈けて出て了ふ。

それを文治は追かけやうとする。――帳場格子につまづいて、たをれる。――文治はうごけない程醉つてゐるので中々起きあがれない。

おすみ。お前まあ醉つてゐるんだね。――何だつてこんな馬鹿げた眞似をするんだい。

文治。(口の中でつぶやく)皆な知つてゐる。――皆な知つてゐるんだ。

おすみ。何を知つてゐるんだよ。――第一どの顏あつてお前こゝの家へこられたんだい。

銀之助。まあいゝお母さん。――醉つてゐるんだから、明日になればどの道わかる事なんでせう。ね文さん、さ二階へ行つて寢ませう。ね。

文治。(銀之助の云ふ事なんかは耳にも入らないといふ風に)――親の金を子がつかふに何が不思議だい。――何是いけないのだい。――みんなみんなこゝの家のものは俺のものだ――

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おすみ。何だつて、もう一遍云つてごらん、さんざつぱら親不孝のありたけをして、その上何が不そくでこんな眞似をする—

銀之助。まあお母さん、よござんす——さ文さん、今夜はもう寢た方がいゝ。——

不意に押へられてゐる手をふりはなして、文治は立ち上る。そして、そこにあるものを手あたりしだいおすみになげつける。

銀之助。お母さんあぶない。——

おすみは店から外へ駈けて出て了ふ。それを見た文治は銀之助の手をふりほどいて、一散に外へ分け出て行く、銀之助もつゞいて追つて行く。泣いてゐたおしんと、氣をのまれたやうに部屋のすみに立つてゐた女中と小僧とは、默言（だま）つたまゝ、云ひ合したやうに店の土間へ下りる。——おしんはほの白い横顔を見せて、店の前にたつてゐる。——しんと更けた夜を、流してくる、流しの二挺三味線の音がだん／＼に近よつてくる。

（しづかに幕）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ソニア・コウァレフスキィの自傳

——野上彌生譯

第六章　叔父さんのフェドル・パウリッチ

ターニャが母方の叔父さんに對する懷しい思ひは、大分違つた性質のものでありました。その叔父さんはお母様には一人つきりの弟で、年もずつと若いのでありました。彼は聖ペテルスブルグに住つて、名高い名家の掛け更之の後取りと云ふのですから、姉妹達や大勢の伯母さんや、凡ての未婚の女達から、ちやほやされてゐました。

彼が訪ねて來るとパリビノでは大騷ぎでありました。初めて來たのはターニャが九つの時でありました。暫くの間はその話で持ちきりで、彼を容れるために、一番上等の豫備室を片附けるやら、パリビノから百哩ばかりある町へ迎ひの馬車をやるやらいたしました。けれども待ち受けてゐたよりは一日前に、一つの二輪馬車（テレガ）が門の前に引きつけられて、輕い外套を着た若い人が、旅革鞄を肩にして飛んで出ました。家の人々は玄關に駈け出して

その人を迎へました。

フェドル・パウリッチは樂しげな聲をした人であります。彼は全く若くて、その短い栗色の髮毛は、頭のまわりに天鵞絨の小布團(クッション)のように立つてゐました。頰は空氣が冷めたいので赤くなつてゐました。美しい褐色の眼は愉快げにきよときよとしてゐました。綺麗な上鬚があつて、生き生きした赤い唇の間からは、一と重ねの白い齒が輝いてゐました。

『綺麗だわ。立派だわ。』とターニャは思ひました、而して嬉しくつてたゞその人ばかり見てゐました。

『これは誰だつたね、アニウタ?。』と彼はターニャを指しながら尋ねました。

『いゝえ違ひますよ。何云つてるの、フェディヤ、アニウタはもう若い貴女(レディ)ですよ、これはターニャちやありませんか。』とエレナ・パウロヴナは不承(ふしよう)らしく答へました。

『へえ、子供たちが大きくなつたものだな。今に御覽ナ、皆んなして直ぐあなたをお婆さんにして仕舞ひまさあ。』とフェドル・パウリッチは笑ひながら叫んで、ターニャに接吻いたしました。ターニャは何故ともなく恥しくなつて、まつ赤になりました。

食事は非常に賑かでありました。フェドル叔父さんは絶えず氣輕く話し續けて皆んなを笑はせました。イヴァン・セルゲゼエヴィチも大事にもてなして時折家族の若者にやつて、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

その人達を非道く苛立たせるやうな長者ぶつた風は少しもありませんでした。

ターニャは叔父さんから目を離せませんでした。彼のものならば、その美しい白い手でも當世風な英國好みの着物でも何もかも好くて堪らないのでありました。

『ねえレナ。』と彼は笑ひながら姉さんに申しました。『僕はターニャの眼が何かに似てるやうな氣がして仕方がなかつたがね、今やつと分つた、砂糖漬の苺(グースベリー)のやうだ、大きくつて、綠色で、旨しい。』

皆んな大笑ひになりました。ターニャはまつ赤になつて少し非道いと思ひました。けれども叔父さんが『素敵に旨しくて、素敵に綠色だ。』と云ひ添へたので機嫌が直りました。

食事がすむと叔父さんは隅の寢椅子に坐つてターニャを膝に載せました。

『さあお出で、お友達にならなきやね。』と申しました。而してターニャの勉強してる事に就いて色々話し始めました。子供達は大抵自分の强味をよく知つてゐるものであります。ターニャも自分は年にしては十分な智識を持つてゐると信じてゐましたから、叔父さんが斯んなことを話し出すのを嬉しいと思ひました。彼女が立派に返答をいたしますので、叔父さんは非常に悅んでゐました。

『お前は何んてはしつこい子だらう、旨い〱、何んでも知つてるんだね。』と云ひ續けて

ゐました。

『さア、叔父さん何かお話して頂戴な。』とターニャはねだります。

『して上げるとも。併しお前はお伽話なんかは聞き度くない方の貴女らしいね。』と笑話らしく申します。『何か眞面目なものをして上げようね。』と珊瑚礁だの海藻だの濱蟲だのゝことを話し初めます。それは非常に面白い話であります。彼はその子供が如何にも熱心に聞き入つてゐますので、すつかり引き込まれて仕舞ひます。

こんな樂しい會話はイヷャン・セルゲゼエヷッチとエレナ・パウロヷナが一時間半ばかりうたゝ寢に引つ込んだ後で、毎晩始まつたのでありました。アニウタやフェディヤはこんなものを敎へるような會話は聞こうともいたしませんでしたから、ターニャは叔父さんを一人占めにいたしました。この事はターニャに取つてはこの上もない待遇でありました。

さて叔父さんがパリピノへ來てゐた時に、近所の一人の紳士がオルガと云ふその娘を連れて訪ねて來たことがありました。このオルガはターニャがつき合つてゐたたゞ一人の娘で、年は同い年でありました、餘りしよつちゆうも參りませんでしたが、來れば終日居ることになつてゐました。時によるとずつと夜までもをりました。彼女は活潑な子供でありましたから、ターニャもその娘の來るのをいつも待つてゐたのでありました。けれども今

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

度はターニャは一番に斯う思ひました『あの人は御飯がすんだら何をする積りなのだらう、どうしたら叔父さんを私一人のものにして置けるだらう。』ターニャは何となくオルガがゐては面白味がなくなるだらうと云ふ氣がいたしましたので、平素よりも非道く不愛想にしてゐました。午後ぢゆうターニャは早くオルガが歸ればいゝとばかり思つてゐました。ところが中々オルガは晩遲くまで居ることゝなりました。如何したらいゝでせう。とうとターニャは思ひ切つてお友達に打ち出して仕舞ひました。

『ねえ、オルガ』と彼女は機嫌を取るような風に申しました。『私ねいちん日あなたと遊ぶわ、そして何んでもあなたの好きな事をしてあげるわ。その代りにね、御飯がすんだら私を離さなきやいけませんよ。私は叔父さんと少しお話をすることになつてるんですから、あなたが居ちやいけないの。』

オルガは直ぐと承知しましたからターニャは忠實にその約束を守りました。とうと御飯になりました。ターニャは絶えず氣を揉んでゐました『オルガが約束通りにするか知ら。』と危んで、その方をぢつと見ながら、色んな合圖をして約束の事を思ひ出させやうといたしました。

『さア、今日は何をお話したものかね。』とフェドル・パウリッチは食事がすむと小さい姪

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の顎の下を可愛げに叩きながら尋ねました。ターニャは嬉しがつて手を引きながら。叔父さんと一緒にいつもの氣に入りの隅へ引つ込まうとしてゐますと、突然嘘つ吐きのオルガが逐つかけて來てるのが目に入りました。もしターニャが始めに何んにも云つてなかたのならば、オルガは二人の眞面目らしい話を聞くと一番に引つ込んで仕舞つたでありませう。と云ふのはオルガには日課を思ひ出させるような事は何んでも厭だつたからでありましたけれどもターニャの熱心なのを見ると、何か非常に面白い事でもあるに相違ないと思つて、何事か知りたかつたのでありました。『私も行つていゝ。』と彼女はその美しい眼でフェドル・パウリッチを眺めながら尋ねました。

『いゝとも。』と彼はオルガの美しい小さい顔を優しく見やつて答へました。

ターニャはきつい眼つきをしましたが、オルガは知らぬ顔をしてゐました。

『オルガはそんな事何んにも知らないのよ、迚も分りやしないわ。』とターニャは不平らしく拒みました。

『ぢや何かこの人の聞き度いような事を話すんだ。』とフェドル叔父さんは二人の小さい娘を引き寄せながら優しく答へました。ターニャはぷり／＼してゐました。斯んな事は厭なのでありました。彼女は當然自分のものとなつてゐた寶物を奪はれたような氣がいたし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ました。

『さア、ターニャ、來て膝にお座り。』と叔父さんはその不機嫌なのには何の氣もなく申しました。けれどもターニャは踏みつけられたようで、こんな言葉位では中々機嫌が直りませんでした。

『わたし、いや。』ときつぱり返事をして隅つこに引つ込んだまゝすねて居りました。叔父さんは喫驚して微笑みながら彼女を眺めました。彼はターニャの胸に燃える嫉妬を察したのでせうか。而してからかふ積りだつたのでせうか。どうだか知れませんが彼は突然オルガの方を向いて申しました。

『ならよろしい、オルガ、ターニャは來度くないんだそうだからお前此處へお座り。』

これはターニャには思ひもよらぬ打撃でありました。餘り不意を打たれたので邪々張ることも出來ませんでした。而してぢつと默つてその仕合せな相手が叔父さんの膝に座つて嬉しがつてゐるのを見詰めたまゝ、かあつとしてまつ赤になつてゐました。

とう〳〵――ターニャはどうしてそんな事になつたか分りませんでしたが、丁度誰かゞ自分を押しやつたやうな氣がしました――飛び出してオルガの白い腕の肱の上に嚙みつきました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

餘り突嗟な襲撃でありましたから、三人が三人何んとも口がきけませんでした。暫くの間お互ひに顏を見詰めてゐました。とうとオルガが泣き出したので皆んな我に返りました。ターニャは非常に羞しくなつて部屋から走り出ました。『卑怯な、いたづらつ兒。』と叔父さんは腹立しげに後から呼びました。

ターニャがいつも子供らしい悲しさを覺ゆる時の隱れ場は、先の娛姆のニャーニャ婆やでありました。今も縋りに行きました。ニャーニャの前掛に顏を隱しながら、いつまでも聲をあげて泣きました。譯なぞは何んにも聞かれはしませんでした。婆やはたゞその頭を撫せてやりながら『可愛想にね、もうお默りなさい、いゝお兒だ。』と囁いてゐました。ターニャはこの忠實なお友達に自分の絕望を注ぎ出して仕舞ふと、ずつと氣が慰むように思はれました。

折よく女教師は外出してゐましたから、誰にもターニャの居ない事は分りませんでした。終にニャーニャはお茶を一杯飲まして寢床へ連れて行くと、ターニャは直ぐとぐつすり眠つて仕舞ひました。

明けの朝は餘りの恥しさに迚も二度と誰の顏も見られないような氣がしました。けれども思ひの外都合よく余りました。オルガは昨夜の中に歸りました。何事も水に流してター

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ニャの事は別に苦情を云はなかつたのでたのでありました。彼女を罵つたり、叱つたりする人は誰もありませんでした。叔父さんも何んにも變つた素振りは見せませんでした。けれども不思議な事には、その日からターニャの叔父さんに對する感情はすつかり變りました。二人はもはや晩のお話もしませんでした。而して間もなく叔父さんは聖ペテルスブルグへ歸りました。叔父さんはちよい／＼參りましたし、ターニャにもいつも優しくして呉れて、ターニャもその人が好きではあつたのでしたが、これまで感じてゐた崇拜するような愛着は永久に失せて仕舞ひました。

（未　完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お前の日記

――伊達虫子

お前の日記をしっかりと書いてお置き。
お前は毎日わたしの事を日記に書いてゐる。
わたしの事丈を書く日記があるさうだ。
けれども。
わたしはお前の書く日記が、
――わたしの事を書く日記が――
主観で書かれる事を恐れる。
日記は、
――自分の日記は――主観でお書き。
他の人の事は、――わたしの事に。
少しでもお前の主観をまぜて貰ひ度くない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お前の目はまだ足らぬ、
お前の心はまだ働いて居ない、
お前の心はまだ自分と感情とが直ぐ一處になる。
夫がお前をなやませ お前を悲しませる。
お前はまだ泣きたらぬ。
お前はまだ笑ひたらぬ。
お前はまだ何にもしらぬ。
お前は初戀にやぶれたのを、
大變な出來事だと思つてゐる。
そして夫が死に隣りしたと思つてゐる。
隣して居たかもしれぬが、
まだ、向ひ合ひはせぬ。
隣りは隣りだが、背中合せの隣りだ。
向ひ合せになつた死！ 其處には、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

涙も笑ひも無んにもない。
只。不可思議な喜びがある丈だ、
底ひもしれぬ喜びがある丈だ。
お前はしづかりと目を開いて
わたしを見てお置き。
嬉しさうに笑つたのか、
悲しさうに笑つたのか。
嬉し泣きか、
悲しみ泣きか。分らなくては不可ない。
ある悲しみは、
時として人を笑はせる。
ある喜びは、
時として人を泣かせる。
けれども、
眞のかなしみは、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

やつぱり人を泣かせ、
眞の喜びは人を笑はせる。
その喜びは、
やがて其身の亡びゆく道になるといふ喜びでも、
その悲しみは、
やがて自分のよみがへるといふ道であつても、
やつぱり笑ひ、
やつぱり泣くものだ。
お前にはまだ夫は分らない。
まだ其處まで行つてゐない。
お前の日記をしつかりと書いてお置き。
わたしを書く日記を、
しつかりと書いてお置き。
わたしはお前の主觀のまざつた爲めに、
せつかくの喜びの笑ひを、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

悲しみを隱す笑ひと書かれるのを厭ふ。
ふかい〳〵悲しみを、
ある喜びを隱す泣き顏だと書かれる事をおそれる。
書いたものは消えない。
其人が生きてる中は、
書き直すすべもあれ。
死んだ後はもう分らない。
わたしはお前の力丈で見られる事を厭ふ。
お前はお前の力丈の客觀でお書き、
お前の主觀は、
到底まだわたしを計る事は出來ない。
お前はわたしの最も近くにゐる人だ。
わたしはその人の爲めに誤り傳へられる事を此上もない悲しみにしなくてはならぬ。

（一九一四、三、一五）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

思つてゐる事――岩野清

○

花盛りの頃、小用があつて、庚申塚から瀧の川のあたりを歩いて行く中にいつか飛鳥山まで出てしまつた。で序ながらのお花見をしやうと公園に這入つた。葦簀張りの掛茶屋に下町の商家の一團の花見連中が唄ふやらおどるやら、それをはやしながら酒をくみかはしてゐるものやらで賑はつてゐた。私もそのまわりを取まいて笑いさゞめゐてゐる群集にまじつてしまつた。私はかうして花に醉ひ、酒に醉ひ、唄ひ或はおどつてはては氣恥しいやうな事を云つてざれかはしてゐる男女の歡興にひたりつくした有樣をつく〴〵羨やましいと思つて見てゐた。私は自分の今迄經てきた生涯の中にかうした刹那的歡興にすら醉つた事のない、否醉はうとしても醉へない天性ではあるが、それと考へくらべて今迄の自分の小さくいぢけた冷たい生活をふり返つて見た。

私には日常の生活にもつと喜び安く怒り安く樂しみやすいすなほな稚氣にみちた生活を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

望む心と、さうした自分を冷たく傍觀してゐる人のやうなはなれた心との矛盾した二つを持つてゐる。さうして自分をつきはなして、歡樂の中にひたしてしまへないのを殘念に思つてゐる。

私はどうかして自分を傍觀する批判する冷たいさめた心をねむらして、一度でもいゝ、一刹那でも好い、本當に自分を開放してみたい。性の要求するまゝに行く處まで行かしてみたい。反省なしに、どんな醜い事でも大膽にありのまゝに爲しとげてみたい。

私の心の奥底には此要求が絶えず一方の自己批評の心が鬪つてゐる。自分の爲めに生きてゐるんぢやあないか、自分はさう云ひもし、又さうしたいと望んでゐながら何故躊躇するのだ。何故どこまでも要求を實現させないのだ。とるゝやく。と又一方では、さうしてみた處が矢ッ張り孤獨ではないか、醒める時が來るではないか、歡樂にひたつた後の淋しみをのがれる事は出來ないではないか、とさゝやく、かうして私はいつも醉ふまでに至らないでひえてしまふ。

私は張りつめた氣分になれない自分のみじめさが折々見返へられる。

結果を見こして行く處まで行き得ない冷たく醒めた心、私の此心は私の生活に深く食い込んでしまつた。若々しい活氣に滿ちた眼もしびれてしまつた。何をみても心から笑へな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

くなつた。何事に出會つても身も魂もとけ込んでしまうやうな恍惚の狀態になる事が出來なくなつた。

私はかうした自分の沈滯した氣分をふり返つてみる度に、生きやうとする努力がたりないのだ。自己の內心が充實してゐないのだとしみぐ\心細くなる。

それにしても東洋の出世間的思想のいかにも深く我々の骨髓までしみ込んでゐる事を思はせられる。

○

私は結婚と云ふ事實を愛の墮落とは思はない。そして又女性として男性に征服された形式だとも思つてゐない。然し夫としての男性が妻となつた女性に對すると戀人として待する女性にもつやうな索引力がたるみ勝ちになる事は結婚にともなふ悲しむべき弊害だと思ふ。

私は今更夫の爲めに女性としてのすべての要求を犧牲にしてひたすら夫の爲ばかりに日を送つてはゐられない。又自分を理解してくれるだけで滿足はしてゐられない。結婚の眞の意義男性と女性とが戀をなしとげるために同棲してゐると云ふ目的にそふた愛の生活をしなければならない。それには夫からも新らしく戀をする時の充實した氣分と努力とをい

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つも持つてもらはなければならない。然し一般に云へば男性は結婚をしてしまふと、もう女を獨占し得たと云ふ安心から妻の心を索引しやうとする努力がにぶくなつてしまふ。

だから平塚明子氏が結婚の形式をさけて、特に共同生活と發表した心持には私は心から同感する。

そして夫と云ふ名を得れば直に主權者のやうな顏をして形の上にまで、言葉の上にまで、命令的な態度をとる男性のけちな自尊心、又さうしなければ夫としての權威がともなはないやうに思つてゐる小さな自尊心。こんなほんの表つ面の習慣も結婚からくる不快な事實であるで、夫と呼んだり妻と呼ばれるのに反感をもつと云つた明子氏の心持も理解出來る。

然し夫となり妻となつてもお互の考へさへ因習にとらはれてゐなければたやすく改革する事が出來る筈である。であるから私は强て夫妻と云ふ名をつけなければならないとは思つてゐないが、とくにさける必要もないと思ふ。さうして又男女が相愛し相許した場合それが眞の結婚である。だから假令形式がそなはらないにしても結婚生活の事實はある。と同時に形式をつけても結婚の意味を下落させはしない。要するにどちらでもよいのであるが社會に對して自己の立場を明らかにする場合の便宜上形式をそなへる事もまんざら無意味

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ではあるまいと思ふ。只それが爲めに自分とは赤の他人である男の親や兄弟に義務として愛情を强ひられるのは、私も亦明子氏と同樣不條理だとも思ふし斷じて反對する點に於て氏と同感する。

然し形式に伴ふいやな因習をさけるために事實の體現なる形式を厭はれるのはあまり消極的な弱い思想だと思ふ。さういふ無意味な不條理な因習を打破して新らしい意義ある道德を創造して行くのが本當の勇者ではあるまいか。內生活の充實と同時に外面の形式も充分に伴なはして行くのがよりよき仕方ではあるまいか。

私は同樣の意味に於て明子氏の思想が內面にのみ向つて外面に及ばないのをいつも物足りなく思つてゐる。

（大正二年四月十八日稿）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

讀んだものの評と最近雜想

らいてう

○

新文相の婦人觀　四月十九日の讀賣新聞に一木新文相の婦人觀といふ談話筆記が出てゐた。それはここで評するにも足らぬ程の愚なもので要するに氏は婦人に對して何の考へももつてゐない。女子教育といふものに對しても自分として定見はない、何も分らないといふことを間接に表白したに過ぎぬものであつた。私はそれを咎めはしない。何故なら氏として婦人といふもの丸で分らないのは、況して新しい女といふものが分らないのは無理もないことで、又實際に於て分らないのだらうと思ふからだ。それなら何故新聞記者の訪問を受けた時、正直に分らないと答へないのだらう、今自分には何も分らないが自分の職責上これから出來る丈研究する積りだと答へる位の無邪氣さ正直さ誠實とか一國の文相にでも有つてよかりさうなものだ。實際何も知りもしない癖にいゝ加減な推察で輕率に口をきくのが第一無責任だと思ふ。一體日本の(外國はしらないが)先覺とか識者とか云はれる人の一番いけない處はこゝだ。馬鹿氣た位事實を知らない癖に、無責任なことを云つて平氣でゐることだ。あの文相の態度のやうなのが一番始末がわるい。大體に於て、新しい女を漠然呪つておいて、例によつて例の如く良妻賢母主義を主張し、今後の女には良妻賢母たる資格を時勢に應じて養はればならぬ、從つて女子教育の方針も如何にして時代に添ふ良妻賢母を養成すべきかにあるなどゝいふのは無責任で、臆病な、づるい態度である。私は婦人に就て何も考へてゐないかういふ文相にもとく女子教育の上に於て何の期待も有たないけれど今日我々婦人が自から立つて婦人自身の生活を開拓しやうと努力してゐるのに對して、よし理解はなくとも我々をして自由發展の道をとらしむべく無益な妨害を加へられないことを切望する。

○

四月の雜誌や新聞に岡田八千代氏が伊達虫子といふ名で現れて盛に書いてゐる。正直に言へば私は自分で自分を紹介して、口上だの御目見得だのといつて名をかへて文壇に出直しをされた氏の今回のやり口や態度にはあまりいゝ心持は有つてゐない。そこにはどう見ても根のないものの輕々しさや、不眞面目な氣分を語るやうな安

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

價な多くの技巧や、何處までも世間――讀者を前において、その前でチョコチョコチョイをやる戯作者の癖がものとはなしに漂つてゐる。尤も氏としてはこれ丈のことも大奮發だつたに相違ない。昨年の夏女子大學に英語の講習があつた時、氏が子供等に混つて出席してゐられると人から聞いた時私は、氏も何か感ずる處あつてのことだらうとたのもしくも思はれた。其後人の噂によれば（虫子の書いたものからも察せられるが）御良人以外の或若い男を戀されたとか――或はかういふ事件によつて經驗された氏の內生活の動搖が氏をして今回の擧に出でしめたのかも知れない。けれどまだほんものでない、ほんものでないといふ感じが頻りにされたのは何故か。氏の中心思想ともなつてゐることは「讀賣」に出た丁さん宛の「お別れ」で見ても其他の「口上」や「虫子の御紹介」などを見ても嘘が言ひたくない、ほんとのことが書きたいといふにあるらしい。それはいふ迄もなく結構なことだ。結構なことだが嘘を云はないといふそのことの中に既に體があつたとすれば何にもなるまい。殊にほんとのことが書きたいといふ願が氏の內生活のどれ丈の深い處から發して來たのかその動機が那邊に存するかと疑はしい。一體に氏の心は――これは在來の若い女に共通な欠點だが――總て外へ／＼と向つてのみ働いて、他人相手の生活以外殆どなささうな處から考へるとその動機は「ほんとのことを書いた作品でなければ此頃はもてなくなつた」といふ位な處にあるやうにも思はれなくもない。又「いくらうまく書いたつもりの小說でも、いくら上手く言ひ宛てたつもりの劇評でももう其處は私の名前があるのぢや嘘になる」とか、ほんとうのことの書けないのは私の地位が惡いからだとか言つてゐられるがそれはあまりに皮相な考へだと云ふより外ない。こんな考から只名をかへて改めて文壇に出られたものとすればこんな無意味なことはあるまい。無意味なばかりか自己と自己の藝術を卑しめたあまりに自尊心なきもの態度のやうにも考へれば考へられる今更いふ迄もないが、嘘をいふまいと思へば何よりもまづ自己に對して誠實でなければならぬ。小細工や器用の中から眞の生命は出て來ない。要するに自己の內部から自然に發した心的革新に基くものでない限り、私共はそこに只空疎の響をきくばかりで何の眞實に對する權威も力も感じ得なかつた。私は氏の今回の御奮發をよろこびながらもそのとこまでも外面的な又どこまでも御客相手な藝人根性を見せたやうな態度に甚だ嗇い、そして眞劍でないもののあるのを遺憾に思つてゐる。どうか折角の御奮發が根のないものの常として尻つぼまりに終らないやうに虫子氏の前途を祈つてゐる。「虫子は氣が小さい人だから、亂暴なことを云はないで只可愛がつて引立てくれ、今の世の中は引立て役者がなくちや一

向見榮えがしないから」といふ氏の御言葉もどこかに見えたが、これは弱さをみえにし、實物にした在來の日本婦人の臭味を全然脱しない處から出たもので、實際私共より以上に氣が小さいのでも、弱いのでもないのだらうし、又いくら氣が小さいからといつても間違ひは矢張りどこまでも間違ひだし、嘘は嘘だし、いけないことはいけないのだから御引立どころか何だか大變面白くもないことばかり云つたやうだか別段差支もあるまい。

○

「私はエレン。ケイの「戀愛と結婚」の中からこんな言葉を見出した。

「女子が自己の官能を通じ男子によつて幸福になされんことを希望するのは勿論眞實である。併し女性のこの慾望は屢々男を愛し初めてから稍經つて目醒める。故に彼等はその生命を彼の爲めに與へることが出來るのである然るに男の場合にあつては女を所有せむとする慾望は屢ゝ女に對し彼の小さい指を觸れる程愛してゐない内にさへ醒める。乃ち女子にあつて戀愛は通常靈性から官能に進む、そして時にそこまで達しないこともある。これになし男子にあつてはそれが通常官能から靈性に進み、時にその旅程を終らないことがある――これが兩者にとつて男女間に現存する差別の最も痛ましいものである。」

私の過半生に於ける悲しい、痛ましい結果を見せずに置かなかつた戀愛的經驗はこの言葉を心底から肯定させずには置かない。

私はこの言葉が忘れられない。そしてこの言葉から色々のことを考へさせられてゐる。自分がこれ迄に經驗して來た二三の戀愛が回想される。そしてそれがあまりによくこの言葉によつて説明されてゐるに驚く。

○

私は總てに於てまだ子供だが、特に性的生活に於てより多く子供であるらしい。性の問題に對する自分の無智を無智とさへ自覺しえなかつたほどそれほど自分は無智だつた。

男と同棲したのはいふ迄もなく自分にとつて今度が初めてだ。そして自分の無智を――分けても戀愛の官能的方面に屬する世界に對してあまりに無智だつたことをよく／＼知り得たのは一面に於て自分の性的生活の一大成長と進歩を示すものだとも云へよう。

私は自分の性的生活發展の經路とでもいつたやうなものを斷片的なものにせよ書いて見たいと思つてゐる。この號で發表したいと思つて書きかけたのだがいろんな用

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

事が一時に來たゝめ駄目になつた。いづれ近い中に書いてみる。

○

私はこの頃殆ど毎日のやうに染井、巣鴨、駒込邊を「家」をさがしに歩いてゐる。私が自分の住む家をさがすのはこれが生れて二度目のことだ。始めては今の家をさがす時だつた。その時は何よりも自分の書齋といふことばかり考へてゐた。書齋とするによい間のある家ならば他はどうあらうと殆ど顧みもしなかつた。といふよりも全く是等のことは眼中になかつたのだ。そして自分の部屋は他と交渉のないやうに何でも二階を撰びたいなどと思つてゐた。ところが二三ヶ月生活してみた後の今日の私の「家」の撰擇法は大分目のつけ處が變つて來た。只自分の部屋一つに注意を集めるかはりに家を全體として見るやうになつた。何よりもまづ間取りに注意するやうになつた僅の間にかういふ風に變つて來た自分の「家」の見方を思つて私はひとり笑つた。自分の人生の見方もかうして色々な經驗と共に刻々變つて行くのだらう。

○

私は所謂「生活」といふ問題に出逢つたのは全く今度が始めてだ。今迄友人だの他の人のために融通したりなどして小遣に困つたことは幾度もあつたが食べる心配丈はしたことはなかつた。今私は人から云はせれば可成りに慘めな欠乏の生活をしてゐる、けれどたとへ夕べのお米とおかずに差支へる日にあつても自分は案外呑氣でゐられる人間だといふやうな氣がする。

○

私達の名を並べた表札は出す度毎にいつの間にか失くなつて仕舞ふ。最初門柱につけたが、半月も立たずになくなつた。今度は別に柱を立てゝ少し高くし、容易にとれないやうに大きな釘でしつかり打ちつけたのに又失くなつた。

みどり

○

私は一日外で活動して來て子供の待つ家庭に歸る時、眞に安らけき「休息」を思ふ。樂みを思ふ。人間に勞働ばかりあつて休息がなかつたら道墜にみじめだらう。私は今迄呪つて居た家庭と云ふものをつくづく有難く思ふ。

私は此の頃極端なる個人主義を排斥する。人間は共同生活を營む以上決して一人で生きて居られる者ではないと思ふ。私は今斯うして毎日働いて居るのは誰の爲かと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

考へて見ると元より自分の爲めもあるが、第一に良人を愛する故、子供を愛する故なのである。決して自分一人の爲めに働く事は出來ない。頭が舊いと云ふ人もあらうけれど私は美しい「愛」の爲めに丁度昔の騎士（ナイト）のそれのやうに力限り努め度いと思ふ。

○

然し或る時は自分の今して居る仕事が無意義ではないだらうかと思ふ時もある。每日新聞に書く事は唯一日人の目に留るに過ぎぬ、而して捨てられて顧られぬのである小說に於ても左樣だ、何の爲めに斯うして自分の主觀を紙に苦心して書き度いのであらう。或はそれが慰籍になり、思ひ出になる必要の場合もあるが、それなら何故世に發表して見度いか、發表して見たところで何れだけの人々に印象を與へ得るか。心をこめた作が何の反響も世に與へずに皆葬り去られる事を思ふと實に馬鹿らしい。然し私は思ふ。それは決して虛榮に走つたり世に問題を起さう爲ではない主觀から生れたものが客觀となつて自分に歸つて來る其處に一種の滿足と快感があるのではあるまいか。自分の生むだ子は譬へ醜なりとも親の身になると矢張可愛さ同じではあるまいか。

○

三月號の編輯室よりに私が相當の學問のある女子に金子を得らるゝ機關を備へる必要を說きましたに付いて信州の一青年某氏から御親切なる御手紙を戴きました事を感謝します。未だ具體的に考へては居ませんが、是れは第一に金錢上の問題であり又精神上の問題でもあると考へます、然し學問のある者は相當に生活し得るからそれよりか下層社會の者を救ふのが目下の問題だと申される方もありますが、私等には未だ左樣した力は無いのです、それは現社會組織を根本から改良しないと多くを救ふ事は出來まいと思ひますから、私等は私等の力の及ぶ範圍に於て努めるより他無いと考へます。

○

世の中が進步するに從つて男女平等に生活を營（いとな）むで行くやうにならうと思ひます。男も女も同じやうに外に出て働くと云ふやうにならずとも、妻たり母たる女であつても生活に對して相當の力を持ち從つて權利を持つやうになりつつあるのは確な現象だと思ひます。而して其等の女は如何なる職業を求めて進まうさするか、それが問題なのです、斯うした女に光明を與へ導いて下さる方があつたら吾々は心から感謝致さればなりませぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

野枝

○

何時の間にが自分の時間と云ふものゝ少なくなつてしまつたことに氣がつく、雜誌なども漸くめぼしいものを一つ二つ讀めるか讀めない位だ、殊に今月は何にも讀めなかつた、中央公論と文章世界を讀んで見た。併し僅かな時間で走り讀みするのでまとまつた評などは出來さうもない。

○

私達は今までかなり世間の與論と云ふものに無頓着でゐた。て割合ひに自分達の周圍を廣く見てゐた。併しこの頃大分世間でも婦人問題と云ふ言葉を聞くやうになつたので少し注意して見ると、どれも〳〵實に愚劣なことばかり云つてゐる。近く讀賣新聞に婦人附錄が附くやうになつた。私達はそれで世間の人たちが非常に婦人問題と云ふものに對しての考へが間違つてゐる事を知つた。殆んどすべて私達とはずつと違つたいゝ加減な考へを持つてゐるらしい。果して婦人問題があんな人々の云ふやうな淺い處から出たものならば八ヶ間敷くさはぎ立てる必要はない。私は婦人附錄の最初に出た、今日本で最も女子教育などに影響を及ぼす重要な地位にゐる人々の婦人に對する定見のないことおよびその無責任さ加減に呆れてしまつた。馬鹿々々しくなつた。彼のすべては殆んど一樣に新らしき時代に適合するやうなことを言はうとしてゐる。皆すべて新らしきものに對して無理解であると云はれることを恐れるかのやうに、流行の言葉を用ひ而して流行の新らしい女のことに云ひ及ぼしてゐる。併しその云ふ處の根本の思想は、依然として個性を無視した道徳から一歩も出てはゐない。やがてそれは讀賣婦人附錄の態度であるとも云へる。何と云ふ不徹底な沸えきらない編輯振りであらう。私達は本當に自己の智識や内生活をもつと〳〵充實させて今に〳〵本當のムーヴメントを起して根底からあゝ云ふ愚劣な思想を覆へさなければならない。私達は世間に出て本當にえらい者になる前に先づ自己に對して、眞實な勇者であらねばならない。

世間の人々の理解のないことは、當然と云つてもいゝ位で別に驚くことはないけれども割合に私達に近い處にゐる人たちの間にすら理解されないのは殘念だ。而し私は此の間野上彌生氏とお話した時に、丁度同氏のお譯しになつてゐる「ソニヤ」の自傳の中にソニヤからストックホルムの大學總長にあてた手紙の中に、ストリンドベルヒが數學の敎師など不適當だとかいけないとか云つたと云ふやうなことが書いてあると云ふお話であつた。成程、とるにも足らない日本の文士達の何に對しても偏狹な淺い判斷では私達に對する理解など望むのが無理かもしれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ないとつく〴〵思つた。

○

文章世界に出てゐる正宗白鳥氏の挿話。田山花袋氏のトリップ二つとも辛抱して讀んでは見たが、私には物たりないものだつた。二つながらいかにもなれきつた調子でなれ切つた技巧を弄して、態度も書き古された題材を用ゐたものである。でいかにもスラ〳〵とはこばれてはゐるが作から受ける感銘と云つたやうなものは何にもない。兩氏ともに大家と稱するうちに入つてゐられながら何故そんな作を麗々と出されるかと云ふことが不思議に思へる。私たちにはなれて書かれたものなどに對しては少しも尊敬の念は起らない。寧ろ作者自身を侮蔑するものであると思ふ。

同じ文章世界の長田秀雄氏の姙婦授産所（喜劇）は面白く讀まれた。氣の利いたアイロニーと輕いユーモアとで程よくまとめられたいので、相當にある、弱點を突いたものである。舞臺に上せても必ず氣持のいゝ、今までの所謂喜劇と稱するもの等よりもはるかにたち勝つて見られるものであることを信ずる。小山内薫氏の蒲公英の花も氣の利いた巧みなまとめ方をされた作である。然し作者が描き出さうとされたお花の方よりも却つて榕場を思ふお桂の方が鮮やかに浮び出てゐるやうな氣がする。追憶に殊更らしい誇張を見せないで一々細かい描寫をせず印象的にポツと書いた處に追憶が生きてゐると思ふ。處々に才ばしつた技巧がチラ〳〵してゐる。

中央公論の田村俊子氏の「炮烙の刑」は私が今まで讀んだ同氏のものゝ中ではすぐれたものゝ一つであると信ずる。眞面な女の心持ちが可なり力强く描き出されてゐる。女の微細な心の働きに些の理解をも有しない男の氣持ちも或程度までハツキリと出てゐる。もつと委しく書いて見たい氣もするけれど今は嫌々ペンを動かしてゐるので一寸評する氣にならない。折があつたら次號てゝも委しく書いて見やうと思ふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□ふりかへつて見ると、社も二年あまりの間に隨分變つた。最初中野氏と木内氏と物集氏と保持氏と私の五人が發起となつて始めたものだが、今殘つてゐるのは其の中で私一人になつた。まづ第一去つたのが木内氏だつた、木内氏は御自身の勉強のためからで佛語の學校に入學され、今ではもう佛語にも上達されたばかりか思想までも其の學校に同化されたものと見えて、近く舊教の洗禮をうけ朝夕神につかへてゐられる。次に物集氏は世上のなくなられたことや、社や新らしい女に對する世評などの爲め御家の方から苦情がもち上つて公然青鞜の方にたづさはることが出來なくなり、ほんの外部の人として匿名で折々寄稿されることになつたが、其内某氏と結婚された。尤も御結婚後も御作を絶たれたといふ譯ではないが。中野氏は大に作をなさる人らしいが、目下家庭の御事情その他で生活のため暇のないからだになつてゐる。最後に最初から今日まで事實の上で社のために働いて下さつたのは保持氏であつた。氏は創業當時は茅ヶ崎から上京し私の宅にとまりきりで編輯の時など働いて下さつた。其後（昨年春のことだ）社で文藝研究會を開始しやうとした時、氏はその方の事務にあたるため、歸國してから上京を望んでゐられたことでもあり、喜んで今迄の職を辭して上京して下さつた。ところが氏の多大の御骨折りにも係らず、不幸にして研會はいろんな壓迫のため物にならずに仕舞つたが、其頃社の事務所に留守居のないので困つてゐた時だつたので、事務所を氏の居宅に兼ねそこで事務をとつて頂くことにした。氏は社の仕事を唯一の仕事として專らそこに力を注いで下さつた。そして昨年秋補助團を組織して下つた。こんな具合で私は只編輯人として安心して働くことが出た。ところが、一方、氏は色々な一身上の打撃や、長い間の動搖煩悶のため、非常に精神を勞されたと見えて、昨年の冬頃からさてもこんな事務にたづさはられない心狀態にゐられるやうであつた。私は氏の苦しい心に同情とし、さういふ不安動搖の中で事務をとつてゐられる氏の努力も御察して、個人としては、また友人として御苦勞にも、御氣の毒にも思ふと共に社といふ立場からはさういふ心狀態の方に大切な仕事を一任して置くことを心から不安に思ひ出した。けれど其内には氏も何とか御自身の問題を解決されるだらう、いつ迄も同じ不定な狀態に隨へられるものであるまいと私はぢつとそばて見てゐたが、それは容易なことではなさうだつた。氏の考はいつまでも同じ處を行きつ戻りつするばかりだつた。その中に氏はます／＼疲れて行つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

そしていつも只いら〳〵して仕事も落付いて手につかなかつた。物忘れははげしくなつた。或日二三の同人と會して、いろ〳〵氏について語つた後、私から氏に靜養を御勸めして見ることになつた。その結果、氏は今度社を辭して靜養かた〴〵歸國することになつた。私はもとより同人は皆氏がいゝ旅をなさつて、すつかり健康を回復し得て、再び上京、力強い相愛の生活を成就されることを祈つてゐる。二三ヶ月もしたら屹度氏の愉快な顏を停車場に見出すことが出來やう。

□社の内部に動搖を來したこの機に當つて、いろんな方面に革新を行なはうと思つてゐる。そして無意味なものから全然遠ざかり、眞の生命あるもの丈を只生かすことに努めた。私達は又更に新しい力をもつて「青鞜」の成長發展をはかることに勇んでゐる。編輯の上にも今後十分革新のあとを見せる筈だ。本號から面目を一新し、革新紀念號として出す計畫だつたが時日がなくて十分のことも出來なかつたので次號にした。六月號を待つて頂きたい。内容がどれ程充實したか編輯上の工夫かどれ丈現れたか見て頂きたい。

□社の内部革新の結果、編輯はらいてう、野枝。補助團の經營、事務は岩野清氏、らいてう。

□野上八重氏が今後の「青鞜」により以上の力を添へて下さる筈。

□「青鞜」の發賣所は今度東京堂に移つた。

□廣告申込、購讀、に關する事務は青鞜社。

□白雨氏は四月廿三日朝巣鴨停車場から歸國の途についた。

□上野葉氏は久々て上京。目下府下西大久保に滯在。

□同氏は「枕の草紙」の現代語譯出版の計畫。

□三ヶ島葭子氏は第一歌集「哀歌」一約千首に與謝野氏夫妻の序文を添へ淺草岡村書店より近日發行する由。

□加藤みどり氏は日々に入社以來婦人記者として大に手腕を見せてゐる。めつきり若く美しくなつた。

□岩野清氏宅の佛語の會は先生の都合でまだ始まらない決定次第御通知する。

□青鞜小說集の第二を近い中に出版する。それは第一に比較すると其内容に於てたしかに餘程進んでゐると信じる。

□青鞜既刊號發賣。第二卷第六號より第四卷第四號まで。一部各十五錢。

□野枝氏の「婦人解放の悲劇」の新聞廣告を見ると、平塚明序、伊藤野枝譯と大きく出して其下の方に二女史肖像畫入と記し、原著者なる二女史の名を全く省いてない書店の何かの都合であんなことをしたのだらうが、事實はエンマゴルドマンとエケンレイ二女史の肖像畫

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

入だ。

□久しく掲載した瀬沼氏譯の「イワノフ」は今回で完結。

編輯人　平塚明　伊藤野枝

青鞜社補助團員名簿

甲種會員（入會順）

小林哥津　山田須美　岩淵百合　松井靜代
青木穠　岡本かの　北村晉勺　柴田かよ
片野琉　加藤壽　安田皐月　平塚明
辛島キミ　木村政　保持研　矢澤孝
伊藤野枝　高橋龍枝　西端さかえ

乙種會員

坂本眞琴　濱野雪　中村はる　齋賀琴
山田わか　森下てる　丸島白百合　加藤みどり
國分正生　市原次惠　青井禎　猪野武
三浦ふくろ　瀬川ちか　濱川二葉　後藤靜代
眞田さよ　伊藤智惠　瀬沼夏葉　伊草武巨
雛巨　望月れい　鈴木香

寄贈雜誌

婦人評論　女學世界　女學雜誌　南方の花
藝文　新潮　中央文學　新佛敎
塔　詩歌　番紅花　南方の花
白樺　近代思想　詩歌　反響
ロダンの藝術　我等　帝國文學　自畫像
新女界　心の花　新人　月光
三田文學　都會藝術　生活と藝術　秀才文壇
早稻田文學　中央公論　第三帝國　婦人の友
螢船　蛞の舌　河鹿　みづゑ

寄贈書籍

モウパツサン傑作集（八拾錢）　馬場孤蝶譯　如山堂書店
太陽の子（詩集、九拾錢）　福士幸次郎著　洛陽堂
秋風の歌（歌集、六十五錢）　若山牧水著　新聲社發行
三太郎日記（壹圓）　阿部次郎著　東京堂發行

（紹介は次號で）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

靑鞜社概則

第一條　本社は女子の覺醒を促し、各自の天賦の特性を發揮せしめ、他日女流の天才を生まむ事を目的とす。

第二條　本社を靑鞜社と稱す

第三條　本社の事務所を東京府下巣鴨町一ノ一六三に置く

第四條　本社は係員、社員、賛助員よりなる。

第五條　本社の目的を達する爲め左の事業をなす。

一、每月一回機關雜誌靑鞜を發刊すること。「靑鞜」には係員、社員、賛助員の生活及思想を發表す。（但し補助團員の寄稿を發表することあるべし。

一、圖書出版

一、時々係員、社員の修養及研究會、並に事業上の相談會を開くこと。

一、每年一回大會を開くこと、大會には賛助員を招待し講話を請ふことあるべし。

（但し賛助員は出席隨意たるべし）

一、時に旅行を催すこと。

一、本社の事業を遂するため別に補助團を組織す。

第六條　係員、社員、賛助員は女子に限る。

第七條　係員は本社の目的に賛同するのみならず。本社の事業を自己の生命とするものにして專ら幹部にありて、直接本社の事業に從事し。自己にその責任を負ふものとす。係員は每月「靑鞜」の配布を受く。

第八條　係員は在京社員の中より選擧す。

第九條　係員は四人とし、内二名は經營に、他の二名は編輯に從事す。

第十條　每年九月在京社員會議を開き、係員を改選す。但し再選することを得

第十一條　係員には本社の經濟の許す限りは其勞力に對して多少の報酬をなすものとす。

第十二條　社員は本社の目的に賛同するのみならず本社の事業を自己の生命とするものにして雜誌「靑鞜」の配布を受く。

第十三條　社員たらむことを希望する者は住所、姓名、年齡の外に履歷の大體と現在の境遇と入社の動機に十枚以上の原稿と（小說、戲曲、感想、詩歌、評論、飜譯いづれにてもよろし。）最近の寫眞とを添へ本社宛申し込まるべし。

第十四條　賛助員は本社の目的に賛同し、雜誌「靑鞜」に寄稿することを快諾せられたる文壇の諸先輩とす。賛助員は每月靑鞜の配布を受く。

第十五條　本社の事業を經濟的方面より助力するものを補助團員とす。

第十六條　補助團員は補助團規約によつて募集す。

雜誌規定

■每月一回一日發行
■定價一册金貳拾五錢(郵稅壹錢五厘)
■前金購讀料(四ヶ月分)壹圓(六ヶ月分)壹圓五拾錢(八ヶ月分)貳圓(十ヶ月分)貳圓五拾錢(一ヶ年分)參圓
■廣告料(一頁)特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、(半頁)七圓
■振替貯金口座は(東京二一一一六青鞜社)に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢切手に限る(但し一割增のこと)。
■編輯事務、圖書雜誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■雜誌購讀に關する一切の事務は青鞜社へ。
■原稿〆切期日は每月十日限とす。

大正三年四月二十六日印刷納本
大正三年五月一日發行

東京府下巣鴨町字巣鴨一二二七
青鞜社内
編輯兼發行人 中野初

東京市麴町區飯田町五丁目六番地
印刷人 中山千二郎

東京市麴町區飯田町五丁目六番地
印刷所 大正社

禁轉載

發行所 東京府下巣鴨町字巣鴨一二二七 青鞜社
振替東京二一一一六番

發賣所 神田表神保町三番地 東京堂
電話本局四五六一番
振替東京二七〇番

會員募集

青鞜社補助團規約

一、青鞜社補助團は青鞜社の事業を完成せしめんがために經濟上の補助をなすを以つて目的とす

二、本團は其目的を遂行せむがために理事一名、外に會計主任及保員を置き一切の業務を處理せしむ。

三、本團は左の方法により九月一日より十二月卅一日迄會員募集をなす。

1、甲種會員　一ケ月會費　壹圓

2、乙種會員　一ケ月會費　五拾錢

四、會費は大凡二ケ年間確實なる銀行に預金し、其後に於て全金額を青鞜社に寄附するものとす。青鞜社はこれをもつて出版事業を開始す。

五、本團の會員たらむとするものは其目的に贊同し、第三條の會費を入會の月より滿貳ケ年間納むるものとす。

(但し會費領收は青鞜紙上に發表し、別に領收書を出さず)

六、本團は會員に對し青鞜社發行の機關雜誌「青鞜」を每號贈呈す

七、甲種會員には會費全納後なほ滿貳ケ年間は雜誌「青鞜」と青鞜社出版圖書とを其都度贈呈す。

乙種會員には滿貳ケ年間雜誌青鞜のみを贈呈す。

八、本團會員は甲種なると乙種なるとに拘らず、女子に限りて「青鞜」に寄稿し得るの特權を有す。

但し寄稿が二回以上「青鞜」紙上に掲載されたる場合は本人の希望により相當の手續きを經て青鞜社の社員たる事を得。

九、入會申込者は期日內に左の書式により府下巣鴨町、一一二七青鞜社內青鞜補助團宛に申込まれたき事。

會費は每月五日迄に振替口座東京貳壹壹壹六青鞜社內補助團宛に拂込まれたき事。(郵券代用一割增)

但し會費未納者には本團より集金人を差向くる筈

一〇、會費は大凡三ケ年間確實なる銀行に預金し、其後に於て全金額を青鞜社に寄附するものとす。

一一、會計報告は年一回以上便宜の方法を以て會員に發表す。

一二、この規約は理事、會計主任、保員によつて細則を定め、又會員多數の意見によりて變更する事を得。

理事　保持白雨

會計主任　岩野淸

「青鞜」發賣所左記の通り變更

神田區表神保町八

東京堂

電話本局四五六一
振替東京二七〇

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

假面

特價廿五錢

郵税金二錢

第三卷 五月號 第五號

□露西亞文豪ソログーブ（口繪）

□星（評論メエテルリンク）……吉江孤雁

□死の勝利（戯曲ソログーブ）……松永秋雄

□シンジ小品（愛蘭シンジ）……西條八十

□梨倶毘陀より（印度古詩）……増野三良

□稚子京丸菩之曲（戯曲）……森口多里

□春宵秘戯（長詩）……日夏耿之介

□露西亞國民文學の變遷（評論ブランデス）……瀨戸義直

□四月の創作評……□海外文藝概覽

假面社編

近代評傳叢書

第一篇 ストリンドベルヒ 加能作次郎

第二篇 ドストエフスキイ 瀨戸義直

本月下旬發行

袖珍頗美本

定價金五十錢

郵税金六錢

發行所 東京市外四谷大久保百三十一 假面社

發賣元 東京神田錦町一丁目十九 中興館 振替東京四一二三番

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第二十卷　帝國文學　第五

定價金二十錢

新進作家號

郵稅一錢五厘

爭闘の藝術（評論）……内藤濯
ズウダアマンの『榮譽』（評論）……若月紫蘭
悲哀（短歌）……山田檳榔
彼と彼の叔父（小説）……豊島與志雄
鑛畑の中へ（一幕物）……久米正雄
畑（小説）……上野竈太郎
弓の歌（小説）……山崎俊夫
子鳩のやうな女（小説）……翁久允
春宵吟（詩）……江中鐵
四月の文壇（時評）……石坂養平

大日本圖書株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第二卷
第五號

エゴ

五月一日發行
定價二十五錢

目次

戰ひ（感想）　千家元麿
手紙三つ　武者小路實篤
愛の自我（感想）　千家鐵麿
罪を悔ゆる男（小説）　岸田劉生
詩十一編　佐藤惣之助
ミケルアンヂエロ（ロマン、ローラン）　長與善郎譯
六號雜感　四人

挿畫

永遠に創造されたる太陽と月　ミケルアンヂエロ
クリストとマリア　同
ダビッド　同
俘虜　同
光と陰の創造（部分三）　同
ラヘル　同

東京牛込區新小川町三丁目三十一
發行編輯所　エゴ社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

斯道唯一の演劇雜誌

毎月一回一日發行 一冊金二十五錢 郵稅金一錢五厘

歌舞伎

六冊共前金郵稅共金一圓五十錢 十二冊同上金二圓八十錢

百六十七號　（五月一日發行）

『人の一生』に就て……………………小山内薫

曾て本誌に揭げし鷗外博士の飜譯にして近く自由劇場に演ずべきアンドレエスの傑作に就て小山内理事の解譯を掲ぐ。

『惡の華』の古傳說…………松本若水

新たに出來る古典劇場に於て育演すべき此の脚本に就て作者は其著の由來と且つ自己の抱負を語る。

鷗外博士譯の『稻妻』は本號にて完了し**無線電話**は九代目團十郎と呼出して勸進帳の歷史を語らしむ

『先代萩』の歷史と鳴物は杵屋勝四郎の弟によりて微細を穿ち尙**靑々園**の**京阪年代記**には元祿時代の舞臺面を插畫にて示し**口繪**には**海老藏の辨慶**を色刷にて出せり

『大風』に就て……………………戸田一外

正月號より四月に亘りて連載されし此の劇の出所及び英國に於てアーピングが改作せし廉々に就いて詳細なる叙事を載す。

『勸進帳』の型……………………森ほのほ

四月の中央劇壇に三座に於て演ぜられし辨慶の科白を記して目のあたり見るが如く、加ふるに能樂の型をも添ひて參考に供す。

東京本郷湯島切通坂町壽報社內

歌舞伎發行所

電話下谷二四八三 振替口座一八一〇六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

我等

毎月一回一日發行

一部定價二十五錢

五月號

カルル・ハーゲマン……森林太郎
心象破片……山本鼎
馭者ヘンシエル……秦豊吉
幸神の道……松本苦味
海のあなたより……無名氏
詩……高村光太郎
脱獄者……水野盈太郎
小說……伊達虫子
小說……木下杢太郎
四月の小說……江口渙
市井の遊民……佐藤春夫

東京市本郷區駒込林町一九〇
我等發行所

東京市神田區南神保町一六
岩波書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

久津見蕨村先生新著

ニイチヱ

四六判美本
定價九十錢
郵稅八錢

最も早くニイチヱを日本に紹介したる人は久津見先生なり最も深くニイチヱを研究したる人は久津見先生なりニイチヱを祖述してその著書の發賣を禁止せられたるものも亦實に久津見先生なりこす蓋し邦人のニイチヱを解するもの先生の如きは未だこれあらざるべし本書は先生がニイチヱに對する全理會を傾倒して極めて明快にニイチヱの全豹を描出したる名著にしてニイチヱの性格、ニイチヱの事業、ニイチヱの思想、ニイチヱの哲學、ニイチヱの世界觀、ニイチヱの人生觀、ニイチヱの理想の各章、爛熟の想を行るに奇峭の文を以てし人をして世界の哲聖ニイチヱの前に立ち親しくその說を諦聽するの感を起さしめずむば止まざらんこす

久津見蕨村先生著
眞人僞人
定價一圓
郵稅八錢

久津見蕨村先生著
現代八面鋒
定價八十錢
郵稅八錢

東京小石川原町六六
振替東京一五八六六
丙午出版社

東京小石川原町六三
振替東京一二五三
鷄聲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第二巻第八號

定價金十錢

近代思想

五月號

智識的手淫（告白）……大杉榮
正氣の狂人（評論）……大杉榮
四月の評論（評論）……安成貞雄
題未定（詩）……土岐哀果
婦人解放の悲劇（批評）……榮
工女の祈り（詩）……和氣律
胡麻鹽頭（雜錄）……貝塚澁六
蜂と蜂との對話（對話）……荒畑寒村
火星より（小說）……佐藤緑葉
喧嘩（小說）……德永保之助
新刊（紹介）……記者
大久保より（雜錄）……同

東京府下大久保町
近代思想社
振替東京一七一六三

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自畫像

五月號

■表紙繪（ゆきを）

犧牲（小說）　豊島與志雄

夢みる魂の死（戯曲）　新關良三

畫かきの心（感想）　ゆきを

初ひ子（詩）　菊池香一郎

友だち（對話）　木村幹

ボムバアル（飜譯）　牧夫

■五月一日發行（定價廿五錢）

發行所　東京府下西大久保七十八菊池方　自畫像社

發賣所　東京市神田區南神保町十六番地（振替口座東京一九三四四番）　尚文堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みづゑは本邦最古にして且唯一の水彩畫專門研究雜誌なり

月刊美術雜誌

みづゑ

第百拾壹

五月三日發兌

送料共廿五錢

□群像（水彩畫原色版）……石井柏亭
□スエズ運河の岸のアラビア人（同）……小杉未醒
□松原（同）……白瀧幾之助
□風景（同）……大下藤次郎
□碓氷川（水彩畫寫眞版）……石井柏亭
□銚子（同）……海老名文雄
□其他水彩畫會員及春鳥會友作品寫眞數葉
□趣味性……齋藤與里
□朴の樹……丸山晩霞
□畫の質……坂本繁次郎
□その折々……後藤工志
□都市藝術……武田雨水
□妙義と伊香保……石井柏亭
□十人十色……鵜澤四丁
□大島の旅……赤城泰舒
□研究所だより

水彩畫を描く人は勿論愛好せらるゝ諸士は一日も本誌を坐右に缺く可からず

發行所　東京市小石川區關口駒井町三　振替口座東京六九六三番　春鳥會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

慶應大學講師
戸川秋骨先生譯

エマーソン論文集

總金文字入
クロース

◎上卷
正價一圓四十錢
郵稅十四錢

◎下卷
正價一圓二十錢
郵稅十二錢

上卷目次（六版）

▲歷史論 ▲戀愛論 ▲大靈論
▲自恃論 ▲友情論 ▲圓環論
▲報償論 ▲細慮論 ▲智力論
▲靈法論 ▲勇壯論 ▲藝術論

下卷目次（三版）

▲詩人論 ▲作法論 ▲政治論
▲經驗論 ▲進物論 ▲名目論及實在論
▲人格論 ▲自然論 ▲改革論

■中外英字新聞評『簡潔にして光彩ある邦文を以て巧に飜譯せり寸鐵殺人の警句は殆んど每行に盈つ』

▼序文 三宅雪嶺、藤井紫影、河東碧梧桐、國府犀東、笹川臨風、大町桂月、堺枯川、戸張竹風、泉鏡花、德田秋聲、藤田劍峯、白河鯉洋、佐々醒雪、鹿島櫻巷、正岡藝陽、千葉秀甫。

故田岡嶺雲著

四版

數奇傳

▼挿畫 月村、末醒、芋錢、（計七枚）

總クロース美本、全一冊
正價九拾錢、郵稅十錢

是れ著者の自傳也過去の懺悔也罪過の自己告白也。著者の自序に曰『是れ予が生き乍ら建てたる自撰の墓誌と』

版元 東京神田區雉子町 玄黃社 振替東京七九九五 電話本局二〇九番 ◎全國書店賣捌

昭和45年2月28日発行　【第8回配本】

青鞜第4巻　5月号

編著者	平塚らいてう
発行者	藤原正人
発行所	(株)明治文献
印刷	江明印刷
製本	(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
V. 4
no. 5

University of Colorado at Boulder
U18304 6746436

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER